學　報

Kobe　College　Bulletin

ISSN0389－164X

NO. 180

2017. 7 . 7
神戸女学院
学報委員会

私はまだ　私を知らない

学　長　斉藤　言子

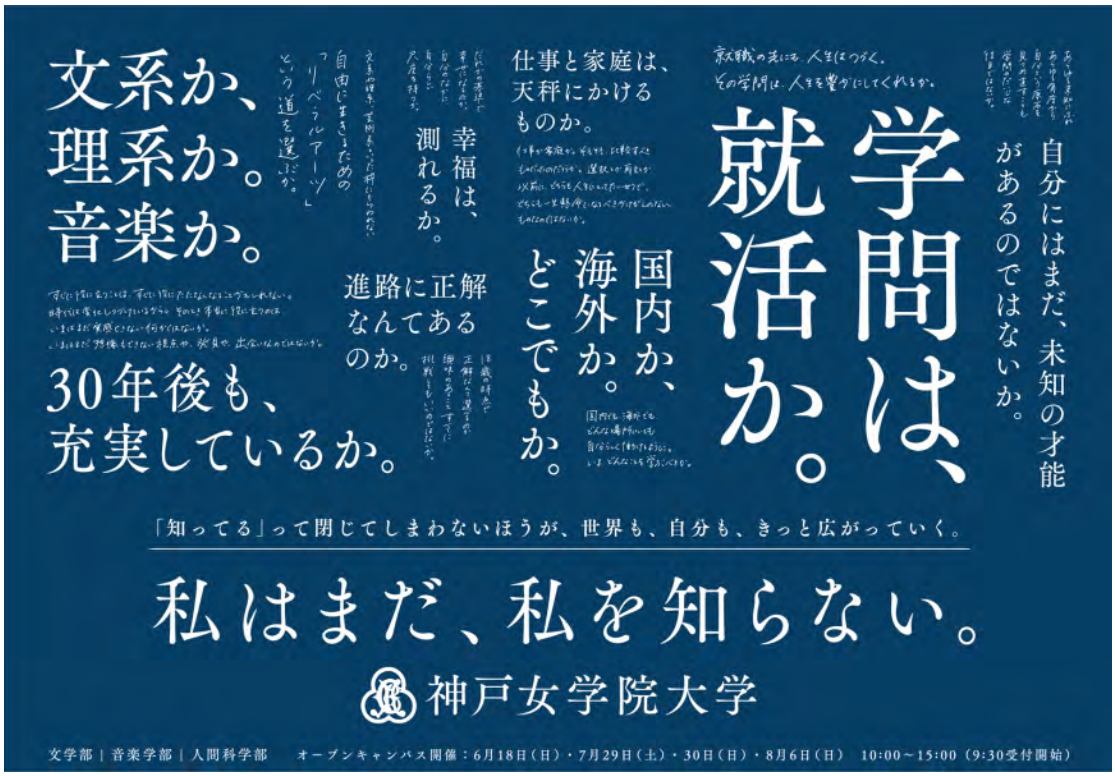
本年度は昨年度を30人も上回る優秀な新入生を迎え、キャンパスはにぎやかに活気づいています。

さて、皆さまの中にもこのタイトルの広告（次頁参照）をご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。６月１日～30日（JR 西日本　快速、新快速）、６月６日～19日（阪急電車全線）の車内に掲出されました。「美しい校舎、風景、伝統、歴史」を中心にデザインされた従来のものとはまったく異なり、全面がスクールカラーの濃青色で、インパクトの強い文字とメッセージだけのポスターに衝撃を受けた方も少なからずいらっしゃったのではないでしょうか。「え？これ、神戸女学院大学？なになに？」これこそが、神戸女学院大学をもう一度、新しい目で見て、意識していただくための大きな目的のひとつであり、ねらいなのです。

このたび、神戸女学院大学の魅力を表すタグラインとして「私はまだ、私を知らない」を制定いたしました。タグラインとは世の中に対して、ブランドが持つ感情面と機能面のベネフィット（優れた点）をわかりやすく伝えるための表現で、神戸女学院大学の思いを世の中へ発信する有効な手段の一つとなります。

昨年、本学の広報が学長室所属となったのをきっかけに、広報体制の強化を大学の重点項目として取り組んでまいりました。昨今は「大学のブランディング」という言葉があちこちで飛び交っています。ブランディングとは、ビジネス界では「自社の商品やサービスが他社のそれとは異なるものとするための名前・用語・デザイン・シンボル或いは特徴的なもの」と定義されているようですが、大学における「ブランディング」とは何なのでしょうか？ブランドという言葉は多様性をもって用いられ、それは、学内関係者の意識統一や広報であったり、または広く地域関係者との信頼関係であったりもしますが、世間的にも確たる共通理解に至っていないように感じます。しかし、大学においても、個性化、他大学との差別化が求められる時代となってきました。本学では、女子大で学ぶことの意味、価値、神戸女学院大学で学ぶことの強み、魅力を、受験生はじめ地域社会や広く一般層にも伝えることを、積極的に前面に打ち出してゆく方針です。

これまでは学内スタッフで進めていました広報体制を見直し、専門外部業者と学長室、大学企画評価会議などを中心に、大学ブランディングに取り組んでまいりました。学生へのインタビュー、教職員ア



ンケートおよびベンチマーク調査（他大学調査）をもとにした結果分析を行い、何度も審議を重ねました。神戸女学院大学は、学生、教職員、同窓生が共鳴し合う大学。今の女性たちが求めているものは何か？これからの時代が求めているものは何か？変えるもの、変えてはいけないものは何か？

『18歳で将来を決めるのは、きっとまだ早い』：まだ社会を知らない。興味がありすぎて絞れないなら、全部やってみればいい。「自分が何になりたいかわからない」という人も、大学で学び、視野を広げてからでも遅くない。神戸女学院大学なら、それができる。

『リベラルアーツは「無知の知」から始まる』：「自分は知らない」と自覚するところから謙虚になり、そして「知りたい」という欲求は生まれる。神戸女学院大学での学びは、ただ「モノゴトを知る」という表面的なものではなく、「私はまだ知らない、だから、知ろうとし続ける。」という、卒業後も人生の指針となる、一生ものの姿勢を身につけるということ。

『自分でもまだ知らない、未知の才能や可能性』：大学生は、まだまだ伸びる。きっと、まだ自分でも知らないポテンシャルがある。そういう意味でも、将来を決めるのは、まだ早い。もっと、試行錯誤する時間があっていい。神戸女学院大学で学ぶことで、今まで気づけなかった、新たな可能性に気づいてほしい。

これらのすべてを凝縮したのが、今回のタグラインです。決定に至る経緯においては、賛否両論はありましたが、最終的には教授会の賛同も得て、走り出しました。

【私はまだ、私を知らない】＝【「知ってる」って閉じてしまわないほうが、世界も、自分も、きっとひろがっていく】

同時に校章と神戸女学院大学という文字のロゴデザインを統一調整しました。

また、地域連携と国際化推進も大学の取り組みの重点項目となり委員会が制定され、西田副学長のもと、教職員の意識も高まり、より積極的な活動として動き出しています。

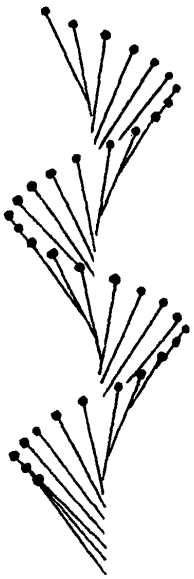
さらに、ダイバーシティの観点から女子大として

は、トランスジェンダーについても意識の中において取り組んでいかなければならないと考えます。

嬉しいトピックスとしましては、『生徒を伸ばしてくれる大学』ランキング（大学通信）において、高校教師からの評価として西日本女子大第１位、『本当に強い大学2017』（週刊東洋経済）においては就職力で関西女子大第１位。『有名企業への就職率が高い大学』ランキング（大学通信）では、西日本女子大第１位。『THE 世界大学ランキング　日本版』には、教育満足度分野で関西私立女子大第１位にランクインされました。多くの情報があふれている中で、注目され魅力ある大学として認識され、選ばれる大学として、守るべきものは大切にしながら、勇気をもって挑戦していくことも大切にしなければなりません。

さて！　創立150周年に向けての壮大なロマンも描きたいと思います。

学内のいくつかの建物の耐久年数による建て替えも視野に入れ、重要文化財の学舎とのバランスも考えながら、キャンパス全体のグランドデザインを考えていかなければならない時期に来ています。講堂は、中高部と大学や同窓会の行事などで、使用調整が大変で、順調に状況が回っているとはいえず、また、公開プログラムなどでは、お年を召された方が「来年は、来れるかしら」と言いながら、坂を上がられているという声をよく耳にします。岡田山という地形の中で、バリアフリー化はなかなか難しいものがありますが、これは真剣に取り組むべき重要課題です。そして、私の（おそらくみんなの）SOGNO（夢みること）ではありますが、正門近くに、講座やコンサートや会合などで皆が活発に利用できる、地域にも開かれた、神戸女学院にふさわしいすてきな建物ができればと、願い祈っております。



KCCだより

[Kobe College Corporation (KCC) was established in 1920 in Chicago, Illinois, as a non-profit organization by a group of Christian philanthropists. Its original purpose was to provide financial support for the relocation of the Kobe College campus from Kobe to Nishinomiya. Ever since, KCC has been a strong supporter of the school, both materially and spiritually, creating opportunities for cross-cultural educational experiences for students and teachers. In 2004, the organization added "Japan Education Exchange" to its original name as its activities expanded beyond support for the school. Kobe College has benefited greatly from the generous support of KCC-JEE for many years.]

Thirty years and counting…

Chair, Graduate Fellowship Committee
KCC-JEE
Cindi Sturtz Sreetharan

Thirty years ago (1987), I was in high school (a junior-高校2年生). At that time, I lived in a very small town in Idaho (Twin Falls, Idaho to be exact). I remember that in my house, we had a red rotary phone; I vividly recall these details because one day that red phone rang. And, when I answered it, the person who had called informed that I had been selected to be a Rotary exchange student to Osaka, Japan. I was very excited. With that one phone call, on that red phone, my life was altered dramatically.

I spent one year in Toyonaka-shi, attending a public high school. I wore the typical uniform, went to 東北地域 on 修学旅行 (where we picked apples and milked a cow — not so different from my life in Idaho!), and joined two clubs (*jūdō* and volleyball). I studied Japanese by attending school every day and living with a host family, as well as taking private language lessons. And, of course, by spending time with friends, I learned typical high school student style Japanese — the kind spoken by Osaka school students. Yes, I learned Osaka dialect. One day, I was walking home from school with two of my closest friends and we were chatting. I don't recall what we were chatting about but I do recall the street we were walking down — the black pavement, the uncovered drains on both sides, the walls of the houses we passed; and, in our chatting, one of my friends suddenly stopped and said: "Cindi! You can't talk like that. You sound like a boy." And in that moment, (unbeknownst to me at the time), my research topic was born.

These two incidences — attending high school in Japan for one year and being told I talked like a boy — dramatically influenced my current situation. In 1995, I started a PhD program in Anthropology (人類学); my dissertation research was funded by Kobe College Corporation. It was through the KCC (JEE) Graduate Fellowship program that I spent over a year on the campus of Kobe College (1998-2000), studying under the expert guidance of Professor Hamashita, now retired. I was able to return to Kobe College in 2006 with funding from the Japanese government, again under the expert guidance of Professor Hamashita. Today, I am a faculty member of the Anthropology Department in Arizona (Arizona State University). My research questions target the way in which language is a resource for people in the creation of their identities; I am interested in this question across all peoples and languages but use Japanese as my point of entry. Recently, I have begun to turn my attention to language, food, and body size. I am particularly interested in what it means to have a large or small body; and, I am interested in what it means to have a young or old body. Here in Arizona, I am working with people over the age of 65, asking questions about how they describe and talk about their bodies (with regard to body size and age). I will be coming to Japan in summer (2017) to talk with Japanese people of all ages about the food that they eat, how food is related to health, and how food affects body size. If you are interested in telling me your ideas or stories, please let me know.

I will forever be grateful for being allowed to come and study in Japan thirty years ago; and, I am incredibly grateful that I was introduced to Kobe College through KCC (JEE) approximately twenty years ago.

［コーベ・カレッジ・コーポレーション（Kobe College Corporation）は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体（NPO）です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCC はその活動範囲を拡大するために、名前の後に “Japan Education Exchange” という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回執筆をしてくださったのは、初代 KCC Graduate Fellow として、濱下昌宏本学名誉教授のゼミで研究をしたことがきっかけで、KCC の活動に関わるようになり、現在は理事をお努めくださっている Dr. Cindi Sturtz-Sreetharan です。］

この30年を振り返って

KCC-JEE 理事、
グラジュエート・フェローシップ委員会委員長
シンディ・シュツルト・スリザラン

今から30年前になる1987年のこと、高校２年生の私はアイダホ州の小さな町、（正確には、アイダホ州ツインフォールズという町）に住んでいました。家には赤いダイヤル式の電話がありました。私がそうした細かなことを鮮明に覚えているのは、ある日その赤い電話が鳴ったからです。その電話は、ロータリー派遣の大阪への交換留学生に私が選ばれたことを知らせてくれました。私はとても興奮しました。我が家の赤い電話にかかってきた一本の電話によって、私の人生は劇的に変わりました。

私は豊中市の公立高校に１年間通いました。私はいわゆる制服を着ていました。東北地方へ修学旅行に行って、りんご狩りをして、牛の乳搾りをしました。それは、アイダホでの生活とそれほど大きな違いはありませんでした。柔道部とバレーボール部に所属していました。学校に通い、ホストファミリーと暮らし、個人的なレッスンも受けて、日本語を学びました。そしてもちろん、友人たちと過ごす時間からも、私は日本の高校生の典型的な日本語、特に大阪の学生たちの話す日本語を習得していきました。そう、大阪弁です。ある日の学校帰り、たいへん親しい友人のうちの二人とおしゃべりをしながら歩いていました。何を話していたかは覚えていないのですが、歩いていた通りの様子は思い出すことができます。黒い歩道、両側に覆いのない用水路があったこと、道沿いの家々の壁の様子。すると突然友人の一人が立ち止まって言いました。「シンディ、そんなしゃべり方しちゃだめだよ。男の子みたい。」それこそが、私の研究テーマが生まれた瞬間でした。最も当時はそんなことには気づいていませんでしたけれど。

日本の高等学校に一年間通い、男の子のように話すねといわれたこと、この二つの出来事は今の私に大きな影響を与えました。1995年、私は人類学コースの博士課程に進学しました。私の学位論文研究はコーベ・カレッジ・コーポレーションからの資金提供を受けていました。KCC（現在は KCC-JEE）の日本研究をする大学院生への奨学金プログラムによって、私は1998年から2000年にかけて神戸女学院のキャンパスに滞在し、濱下教授（現在は名誉教授）の指導のもとで研究生活を送ることができました。2006年にも日本政府からの資金を得て、神戸女学院へ戻り、濱下教授の指導を受けました。今、私はアリゾナ州立大学の人類学学科の教員をしています。私の研究は、言語がアイデンティティを形成する過程で人々の手助けとなる方法を対象にしています。その点においてはすべての国や言語に興味がありますが、私はとっかかりには日本語を用いています。最近、私は言語、食べ物、体の大きさなどに注目するようになりました。特に大きなあるいは小さな肉体を持つことの意味、若いあるいは老いた肉体を持つことの意味に着目しています。ここアリゾナで、私は65歳以上の人たちと一緒に働きながら、その人たちが自分の肉体について（体の大きさや年齢について）如何に描写するかを調べています。2017年の夏には日本に行って、日本のあらゆる年齢の人々に、どのような食べ物を食べ、いかに食物が健康と関連しており、食物がその体の大きさに影響を与えているかについて話をしてみたいと思っています。もしあなたがアイディアや物語を私に話したいと思ったら、連絡ください。

私は30年前に日本にやってきて学生生活を送ることができたことにいつまでも感謝を忘れないでしょうし、およそ20年前に KCC を通して神戸女学院に紹介していただけたことを本当にありがたく思っています。

愛校バザー報告

愛校週間の最後を締め括る今年の愛校バザーは、爽やかな安定した好天に恵まれ、多くの来場者をお迎えして盛況の１日となりました。前夜、強い風のために設営済の大テントのひとつが倒壊するというハプニングがありましたが、当日早朝より代替の小テント16基を設営するため、施設課スタッフはもとより、中高部をはじめ多くの教職員が協力した結果、予想以上に早く作業が完了し、予定どおり午前10時に開会、開店できました。

開会礼拝に続く森院長による開会宣言の頃には、早くも体育館前に昨年以上のお客様の列が続きました。神戸女学院バザーのお買い得商品の数々は、年々ご来場者の評判となっています。どのお店も朝から活況を呈し、昼前には早くも「売り切れ」の表示が散見されました。さまざまな催物もバザーに花を添えましたが、講堂での高等学部ダンス部の公演前に中庭まで延々と伸びたお客様の列は記録的でした。

今年も早朝からめぐみ会や中高部 P. T. A. の皆様が遠くより近くよりご来校いただき、終日笑顔でご奉仕くださいました。また大学や中高部の学生、生徒のみなさんも、それぞれの売店や催物で元気一杯ご奉仕いただきました。めぐみ会売店やめぐみ会館の喫茶コーナーでは、年長の卒業生と在校生が協力してご奉仕くださり、神戸女学院ならではの温かさを感じました。オール神戸女学院がひとつとなった愛校バザーは、今年も神様のお守りのうちに学院への思いを深める豊かな交わりのときとなりました。

最後になりましたが、ご来場くださいました皆様、時間を捧げ周到な準備のうちにご奉仕くださいましためぐみ会、中高部 P. T. A. の皆様、それぞれの役割、担当を全ういただいた学生、生徒ならびに教職員のみなさんに深く感謝申し上げます。

（愛校バザー実行委員長）

大テントと小テント風景

KC 法曹会を設立しました！

KC 法曹会は神戸女学院中学部・高等学部、大学又は大学院を卒業した弁護士、検察官、裁判官その他司法試験合格者を会員とし、2017年２月18日、めじラウンジにおいて創立総会を開催し、発足しました。本年５月現在、高等学部卒68回生から129回生まで約70名が入会しています。

創立総会には、関西圏外を含め27名もの会員が集まりました。ご来賓として、学校法人神戸女学院理事長・院長の森孝一先生、中高部長の林真理子先生、同経理部長の林典宏様、めぐみ会会長の皆本礼子様、そして「女学院出身の法曹の集まりはあるのか」と聞いていただき、「ないなら作ってみたら」と私たちに本会設立のきっかけをくださった内部監査室顧問（当時）の桂充弘弁護士にご出席いただき、また、大学学長の斉藤言子先生からは温かい激励のメッセージを頂戴しました。本会設立にあたり、多くの方々にご指導ご支援いただきましたことに深く感謝申し上げます。

今後、当会は会員相互の親睦と交流を図りながら、神戸女学院の発展に寄与できるような活動をしていきたいと考えております。さしあたり７月８日(土)に、ワークライフバランス等をテーマに本会員を対象としたランチ交流会を開催予定です。皆様からお寄せいただいたご期待に応えられるよう、役員・事務局一同尽力してまいります。今後の活動につきましてご指導や忌憚なきご意見を賜ることができれば幸いです。

（KC 法曹会事務局　弁護士　西山 あかね）

創立総会にて

神戸女学院教育振興会寄付金

平素より神戸女学院教育振興会募金事業にご厚志ならびにご支援を賜り深く感謝の意を表します。

2016年度のご寄付実績を下記の通りご報告申し上げます。

区　分		件数/冊数	金額(円)
現金によるご寄付	同窓生	625件	13,012,000
	保護者（大学・中高）	191件	14,491,000
	役員(教職員を除く)	22件	2,250,000
	教職員・旧教職員	91件	3,375,300
	法人・団体	29件	8,449,340
	一般有志	6件	1,824,750
	現金によるご寄付計	964件	43,402,390
古　本　募　金		13,401冊	713,436
教育振興会寄付金額合計			44,115,826

※複数の区分に該当される方の場合は、事務処理上妥当と思われる区分を選択しております。

神戸女学院2016年度決算報告及び2017年度事業計画

2016年度に実施した事業の内容及び2017年度事業計画の詳細は、『2016年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照ください。

Ⅰ．2016年度神戸女学院決算報告

1．事業活動収支計算書

事業活動収支をみると、事業活動収入計は49億18百万円、事業活動支出計は50億39百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△１億20百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額△１億42百万円、教育活動外収支差額49百万円、特別収支差額△28百万円によって構成されています。
（金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。以下同じ。）

まず、教育活動収入（48億44百万円、前年度比△18百万円）をみると、学生生徒等納付金（40億24百万円）は在籍者数に著変動なく前年度並み、寄付金（57百万円）は古本募金が増加傾向にあるものの金銭による寄付は減少しており、前年度比△８百万円となりました。経常費等補助金（４億70百万円、前年度比△11百万円）は、中高部に対する補助である兵庫県経常費補助金は増加（＋２百万円）したものの、大学においては、私立大学等改革総合支援事業の不採択等により、私立大学等経常費補助金が減少（前年度比△11百万円）しました。付随事業収入（75百万円、前年度比＋28百万円）については、学生寮のシャワーユニット取替工事や舎監室改修工事等を行いましたが、資本的支出の計上が多く、前年度より費用支出が少なかったため、収入増となっています。

一方、教育活動支出（49億87百万円、前年度比＋２億58百万円）をみると、人件費は、退職関連費用が前年度より減少したものの、定期昇給等により全体的には微増となりました。教育研究経費は、大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、消耗品費増（＋１億73百万円）や修繕費増（＋61百万円）となり、前年度比では大幅な支出増（＋２億68百万円）となりました。管理経費は、大学ブランディングへの取り組みを強化する一方、広報戦略の見直しによる広告宣伝費減の効果で前年度比△24百万円となりました。収入減の一方で支出が増加した結果、教育活動収支差額は△１億42百万円（前年度比△２億76百万円）となっています。

次に、教育活動外収支についてみると、前年度は金銭信託の中で運用していた債券を売却したため、金銭信託運用益が例年より多く計上されていましたが、本年度は売却も行わず、利率の高い債券の減少に伴い利息収入も減少したため、受取利息・配当金は50百万円（前年度比△44百万円）となりました。一方、借入金の約定返済により借入金利息も減少（△0.9百万円）し、教育活動外収支差額は49百万円（前年度比△43百万円）となっています。

さらに、特別収支についてみると、前年度は主に債券売却益による資産売却差額35百万円を計上していましたが、本年度は資産売却を実施せず、施設設備補助金についても、私立大学等改革総合支援事業の不採択により減収となったため、特別収入は22百万円（前年度比△52百万円）に留まりました。一方、資産処分差額は大学ITリプレースやトイレ改修、空調機改修等に伴う除却損50百万円（前年度比＋38百万円）を計上し、特別収支差額は△28百万円（前年度比△91百万円）となりました。

これらの３活動により、基本金組入前当年度収支差額は△１億20百万円となり、大学ITリプレースによる固定資産の取得（１億94百万円）や建物借入金の返済（42百万円）等による第１号基本金組入（２億11百万円）、第３号基本金組入（１億36百万円）、合計３億48百万円の基本金組入を行った結果、当年度収支差額は△４億69百万円（前年度比△３億89百万円）となりました。本年度は、学校法人会計基準の改正に伴い、第４号基本金取崩（19百万円）も必要となり、第１号基本金取崩とあわせると基本金取崩額は37百万円となりました。当年度収支差額に基本金取崩額及び前年度繰越収支差額（△10億95百万円）を加味した結果、翌年度繰越収支差額は△15億28百万円となりました。

2．資金収支計算書

資金収支をみると、事業活動収支と同様、収入減の一方、本年度の事業計画に則り、大学ITリプレースをはじめとする環境整備に注力した結果、大幅な支出増加となっています。ただ、年度末近くの工事も多く、期末未払金が増加したため、翌年度繰越支払資金は25億58百万円（前年度比△１億94百万円）となりました。

3．貸借対照表

（１）資産の部

【固定資産】158億56百万円（＋１億96百万円）

有形固定資産については、大学ITリプレースにより教育研究用機器備品が増加（＋１億37百万円）

事業活動収支計算書　（単位：百万円）

		科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,017	4,024	4,001	23
		手数料	85	89	94	△ 5
		寄付金	52	57	66	△ 8
		経常費等補助金	464	470	482	△ 11
		付随事業収入	75	75	47	28
		雑収入	117	127	171	△ 44
		教育活動収入計	4,811	4,844	4,863	△ 18
	事業活動支出の部	人件費	3,042	3,046	3,035	11
		教育研究経費	1,608	1,586	1,318	268
		管理経費	361	349	374	△ 24
		徴収不能額等	1	4	1	2
		教育活動支出計	5,012	4,987	4,729	258
		教育活動収支差額	**△ 201**	**△ 142**	**134**	**△ 276**
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	51	50	95	△ 44
		教育活動外収入計	51	50	95	△ 44
	事業活動支出の部	借入金等利息	1	1	2	△ 0
		教育活動外支出計	1	1	2	△ 0
		教育活動外収支差額	**49**	**49**	**93**	**△ 43**
		経常収支差額	**△ 151**	**△ 92**	**227**	**△ 320**
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	—	—	35	△ 35
		その他の特別収入	19	22	39	△ 17
		特別収入計	19	22	74	△ 52
	事業活動支出の部	資産処分差額	27	50	11	38
		特別支出計	27	50	11	38
		特別収支差額	**△ 7**	**△ 28**	**63**	**△ 91**
基本金組入前当年度収支差額			△ 158	△ 120	290	△ 411
基本金組入額合計			△ 412	△ 348	△ 370	21
当年度収支差額			△ 570	△ 469	△ 79	△ 389
前年度繰越収支差額			△1,095	△1,095	△1,016	△ 79
基本金取崩額			—	37	—	37
翌年度繰越収支差額			△1,666	△1,528	△1,095	△ 432
（参考）						
事業活動収入計			4,881	4,918	5,033	△ 115
事業活動支出計			5,040	5,039	4,743	295

資金収支計算書　（単位：百万円）

収入の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,017	4,024	4,001	23
手数料収入	85	89	94	△ 5
寄付金収入	70	77	90	△ 12
補助金収入	465	471	496	△ 25
資産売却収入	—	—	35	△ 35
付随事業・収益事業収入	75	75	47	28
受取利息・配当金収入	51	50	95	△ 44
雑収入	117	127	171	△ 44
借入金等収入	—	—	—	—
前受金収入	691	742	724	18
その他の収入	192	203	212	△ 8
資金収入調整勘定	△ 782	△ 787	△ 858	71
前年度繰越支払資金	2,753	2,753	2,659	93
収入の部合計	7,735	7,828	7,769	59

支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
人件費支出	3,045	3,043	3,054	△ 11
教育研究経費支出	1,312	1,290	1,011	279
管理経費支出	329	317	341	△ 23
借入金等利息支出	1	1	2	△ 0
借入金等返済支出	115	115	115	△ 0
施設関係支出	151	141	161	△ 19
設備関係支出	292	295	97	198
資産運用支出	148	159	164	△ 4
その他の支出	129	126	175	△ 48
資金支出調整勘定	△ 111	△ 220	△ 106	△ 113
翌年度繰越支払資金	2,323	2,558	2,753	△ 194
支出の部合計	7,735	7,828	7,769	59

しました。また、トイレ改修工事（アンジー・クルー記念館、ジュリア・ダッドレー記念館、図書館新館等）によりアメニティの向上を図るとともに、空調機改修工事（タルカット記念館、第三体育館他）や無線LAN環境の拡大（音楽学部1号館他）、文学部2号館32室・33室・34室の机・椅子の更新等、教育環境の充実にも力を入れました。その結果、有形固定資産は88億43百万円（前年度比＋15百万円）となりました。

特定資産については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。第3号基本金の計画的組入れ（2016年度まで毎年1億円組入れ）、教育振興会等による寄付金収入の第3号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れにより、特定資産は62億81百万円（前年度比＋1億59百万円）となりました。

その他の固定資産については、繰上返済等により貸与奨学金残高が減少（△23百万円）したものの、大学ITリプレースに伴うソフトウェアの取得（57百万円）等により、7億31百万円（前年度比＋21百万円）となりました。

【流動資産】26億32百万円（△2億85百万円）

未収入金は、主に退職金財団からの交付金で構成されており、長期勤続の退職者減や、補助金の期末未収入金が減少したことにより減少（△84百万円）しています。また、資金収支計算書の記述のとおり、現金預金が減少しています。

（2）負債の部

【固定負債】16億69百万円（△54百万円）

借入先は私立学校振興・共済事業団のみであり、約定返済による短期借入金への振替により長期借入金が減少（△55百万円）しています。割賦購入による長期未払金や退職給与引当金に著変動はありません。

【流動負債】11億15百万円（＋86百万円）

3億円の借入金を完済したことにより短期借入金が減少（△60百万円）しましたが、3月実施の工事（無線LAN工事、セキュリティ強化工事等）をはじめとする未払金が大幅に増加（＋1億13百万円）したため、流動負債合計額も増加しました。

（3）純資産の部

【基本金】172億32百万円（＋3億11百万円）

第1号基本金は、保有する固定資産のうち教育の

用に供されるものや、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものであり、本年度は、大学ITリプレース等による固定資産の取得に伴い1億93百万円増加しました。第3号基本金は、奨学金などの教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するために組み入れるもので、奨学基金への計画的組入れ1億円及び教育振興会等の寄付金の組入れにより1億36百万円増加しました。第4号基本金は、運転資金の財源として組み入れたものであり、本年度は19百万円の取崩を実施しました。

【繰越収支差額】△15億28百万円（△4億32百万円）

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

Ⅱ．2017年度神戸女学院事業計画

1．今後の運営方針及び2017年度事業計画

中高部や法人も含めた本学の主な取り組みのうち、特別予算を中心とした2017年度の主な事業計画の内容は以下のとおりです。

2017年度に実施される事業計画の策定にあたり、大学では以下の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取り組みを優先し採択しました。

2017年度重点項目（番号：優先順位）	継続的な注力項目
1．広報	▽英語教育の強化
2．国際化の推進	▽リベラルアーツ教育の整備
3．社会連携の強化	▽学習支援環境の充実

【広報】

- 本学学生や受験生等に対するアンケート調査を実施し、本学の強みや改善点を把握することで、今後の広報活動や教学的な制度の見直しに役立てていきます。
- 2016年度に実施した調査、アンケート等の実施を踏まえ、大学ブランディング戦略を立案します。ロールモデルとなる女性像やリベラルアーツを訴求するタグライン（キャッチコピー）を含むコンテンツ等の制作、キャンパスの魅力を体感できるイベントを実施し、調査による効果検証まで行います。
- 研究開発の成果として、「『美容式』®アミノ酸ゼリー」に継ぐ神戸女学院大学ブランド商品を企画、販売し、広報活動に繋げていきます。
- 大学公式サイト、入試サイト、研究所・女性学インスティチュート、総合文化学科、音楽学部、人間科学部の各ホームページをリニューアルし、セキュリティ対策および、スマートフォン等に対応

貸借対照表　（単位：百万円）

資産の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A)-(B)
固定資産	15,856	15,659	196
有形固定資産	8,843	8,828	15
土地	1,341	1,341	0
建物	4,376	4,474	△ 98
構築物	522	543	△ 21
教育研究用機器備品	558	443	114
管理用機器備品	20	18	2
図書	2,022	2,005	17
車両	0	0	△ 0
特定資産	6,281	6,121	159
第3号基本金引当特定資産	1,528	1,392	136
退職給与引当特定資産	1,468	1,465	3
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	146	127	19
その他の固定資産	731	710	21
電話加入権	3	3	0
ソフトウェア	80	35	44
有価証券	406	406	0
差入保証金	3	3	0
出資金	20	20	0
貸与奨学金	215	239	△ 23
その他	0	0	0
流動資産	2,632	2,918	△ 285
現金預金	2,541	2,735	△ 194
修学旅行費預り資産	16	17	△ 0
未収入金	63	148	△ 84
前払金	10	16	△ 5
資産の部合計	18,488	18,577	△ 89

負債の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A)-(B)
固定負債	1,669	1,723	△ 54
長期借入金	196	251	△ 55
長期未払金	3	6	△ 2
退職給与引当金	1,468	1,465	3
流動負債	1,115	1,029	86
短期借入金	55	115	△ 60
未払金	212	98	113
前受金	742	724	18
預り金	88	74	14
修学旅行費預り金	16	17	△ 0
負債の部合計	2,784	2,752	31

純資産の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A)-(B)
基本金	17,232	16,920	311
第1号基本金	15,349	15,155	193
第3号基本金	1,528	1,392	136
第4号基本金	354	373	19
繰越収支差額	△1,528	△1,095	△ 432
翌年度繰越収支差額	△1,528	△1,095	△ 432
純資産の部合計	15,704	15,824	△ 120

負債及び純資産の部合計	18,488	18,577	△ 89

した機能向上を目指します。
・神戸女学院クリスマス礼拝において使用された代表18曲の楽譜「クリスマス曲集」を出版します。

【国際化の推進】

・2015年度より開始したIELTS（アイエルツ）の学内受験について、2017年度も受験料を一部補助（1万円/人）し、派遣留学を含めた留学生の増加を図ります。
・「遠隔同時会議・通訳システム」を継続活用することにより、海外とライブで双方向的な授業や会議を展開します。学生の国際感覚や語学力の向上、遠隔地との会議の簡易化を図ります。
・学長裁量経費によるCLIL教員研修実施により、本学大学教育の国際化の準備を開始します。
・教育の国際化の充実発展のため、各学科が実施する海外フィールドワークへの学長裁量経費による支援体制を作ります。

【社会連携の強化】

・2017年度も引き続き、「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」を開催します。
・教育における社会連携推進のため、地域でのサービスラーニング等の活動に対し、学長裁量経費から経費支援できる枠組みを作ります。

【英語教育の強化】

・1年生の前期、GE151（1）履修者全員にOsaka English Village（体験型英語教育施設）への参加を義務づけます。英語への苦手意識を取り払い、英語学習のモチベーションを高めることを目指します。
・2014年度から継続して「英語手帳」を発行、オリジナルテキストも改訂版を出版します。
・新しい英語オンライン学習システム、ATR CALL-BRIXの導入により英文学科を含む全学生が自分の英語のレベルに合わせて自主的に4技能を伸ばしつつTOEICやTOEFL学習に取り組めるように環境を構築します。

【リベラルアーツ教育の整備】

・大学の教務システム（Universal Passport）のシステム改修により、シラバスに「本学で学ぶ7つの力」を新たな項目として盛り込むことで、学生が履修選択する際の指標を示し、学生が受講科目に取り組む際に、より意欲的かつ主体的に取り組めるようにします。
・学習手段の充実を図るべく、2017年度から始まるアクティブラーニング系の授業での利用増が見込まれるタブレット型PCを増設します。
・全1年生に、大学での学び方に関する基本的な図書を配布、自主的で意欲的な学びを奨励します。
・新科目クローバーゼミによって新しいリベラルアーツ教育を推進するため、非常勤を含む全担当者会議を開催し、大学としてアクティブラーニングを進めます。
・第3期認証評価を見据えて、自己点検・評価データマネジメントシステムを改修します。

【学習支援環境の充実】

・前回更新から5年経過した大学の教務システム（GAKUEN/Universal Passport）のサーバー更新を行い、安定的かつ持続的な運転・運用を図ります。
・大学内ネットワークシステム、無線アクセスポイント、パソコン教室（CS/MM/CALL教室）の情報関連システムおよび機器、教職員および学生用のメールシステム等のサーバシステムなどの整備・維持管理を行い、安定運用可能な体制を維持します。
・英文学科の新カリキュラムで新たに開講される体験型科目で使用するビデオ制作のための一連の機器やビデオ編集ソフト、最新ソフトに対応した編集用ノートPCを購入します。優秀なビデオ作品は英文学科HPにアップする予定であり、広報面での効果も期待されます。
・音楽学部において修理が必要なハープ1台を買い替え、安定的な授業運営を図ります。
・臨床心理学実習室（S-8）、行動科学基礎実習室（S-10）、行動科学応用実習室（S-13）のデスク等の入れ替えを実施し、快適な授業・自習環境を提供します。
・メアリー・アンナ・ホルブルック記念館にマイクロ波プラズマ原子発光分光分析装置を設置します。購入後25年以上にわたり教育・研究の両面で使用されてきた環境科学分野の主要分析装置である当装置を更新することで、実験時の安全性、正確性、作業効率の向上が図れます。また、環境科学分野だけでなくバイオサイエンス領域の研究へと教育研究における適用範囲の拡大が見込まれます。
・（中高部）文科省推奨のアクティブラーニングのための各HR教室のICT化（視聴覚化：スクリーンやプロジェクターの設置、無線LANポイントの設定等）により、授業でのPC等の活用が容易になります。また、電子黒板プロジェクターを使用することで、双方向での授業展開も可能となり、理想的な授業スタイルに向けての基盤整備が整います。
・（中高部）大学と共有のテニスコートのうち、1面をオムニコート化します。ローラー整備が不要と

なるだけでなく、大会等でのコンディションに左右される度合いも減るため、利用頻度の増大に繋がることが期待されます。

・（中高部）老朽化している中高部１号館の照明器具を LED に全面更新します。また、黒板灯やサーキュレーション（33室・40室）も併せて設置し、良好な室内環境の維持とランニングコストの削減に努めます。

・学校行事、礼拝の円滑な実施を担保するため、講堂 AV 機器を更新するとともに、スポットライトを設置し、高所作業リスクの回避および各種行事での演出の多様化を図ります。

【その他】

〈学生生徒支援〉

・（大学）給与奨学金制度を新設し、家計基準・成績基準を満たす者（２～４年生：各学年10名ずつ）に対して年額360千円を給付します。経済的理由による退学者を減らし、卒業後の奨学金返還の負担を軽減させ、在学中は学業に専念し充実した学生生活を送れるよう支援していきます。

・（中高部）給与奨学金制度「中高部クローバー給与奨学金」を新設し、高等学部に在籍する経済的困難な状態にある生徒を支援します。

・学生寮において、希望する寮生に対して夕食提供サービス（授業開講期間中の平日）を開始し、栄養状態の改善を図ります。その他、給湯器取り替え、乾燥機の増設、食堂椅子の座面クリーニング、防犯カメラの設置（２台）等により、寮生が快適かつ安全に生活できる環境を整えます。

・「就職率向上のための支援講座」「フロントランナー育成のための特別講座」「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育およびキャリア支援活動の充実を図ります。

・学内コンビニエンスストア（セブン-イレブン）で使用できる KC オリジナル nanaco カード（プリペイドカード）を制作し、学生生徒のカード購入を促進することでレジの混雑緩和を図ります。また、卒業生やお客様のノベルティ需要を満たすことが期待されます。

〈学生生徒募集〉

・一般入試（前期・後期）およびセンター利用入試（前期・後期）について、インターネット出願を導入し、受験生の利便性を高めます。一方、出願書類の記入ミス等をチェックする手間や人員を削減し、出願状況をタイムリーに把握できるようになるため、業務効率も高まります。

〈管理〉

・2016年度に実施した人間科学部建物４棟への鍵の管理強化（ディンプルキーへの交換、鍵管理装置や入退館管理装置の設置等）を総務館およびデフォレスト館にも展開するとともに、監視カメラも増設し、セキュリティ強化を図っていきます。

・重要文化財保護の観点から、法の基準にもとづき、エッジウッド館と正門（守衛室・正門住宅）に自動火災報知機を設置します。

・ジョージ・オルチン記念館空調設備改修、タルカット記念館サッシ改修・外壁塗装（西面）、大学クローバー館外壁改修、総務館・中高部１号館床下蒸気配管保温材の除去、汽罐室からめぐみ会館までの道路の排水管・ガス管改修、ケンウッド館他エアコン更新等を実施します。

２．2017年度予算書

2017年度事業活動収支予算書の概要は以下のとおりです。

事業活動収支予算書　（単位：百万円）

		科目	金額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,047
		手数料	85
		寄付金	50
		経常費等補助金	510
		付随事業収入	81
		雑収入	37
		教育活動収入計	4,811
	事業活動支出の部	人件費	2,994
		教育研究経費	1,429
		管理経費	383
		教育活動支出計	4,806
		教育活動収支差額	**4**
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	42
		教育活動外収入計	42
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		教育活動外支出計	0
		教育活動外収支差額	**41**
		経常収支差額	**45**
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	28
		特別収入計	28
	事業活動支出の部	資産処分差額	12
		特別支出計	12
		特別収支差額	**16**
基本金組入前当年度収支差額			62
基本金組入額合計			△ 129
当年度収支差額			△ 66

（参考）

事業活動収入計	4,881
事業活動支出計	4,819

史料室の窓(43)

How does your garden grow?

― 自校(史)教育とキャンパス ―

神戸女学院史料室　佐伯　裕加恵

近年、大学では自校(史)教育が盛んです。入学した学生たちに学校を知ってもらい、自分の居場所を作り学校に愛着を持ってもらうという単純な動機から、自分が学んでいる学校を題材として歴史の一端を学んでもらうという学術的な目的まで、自校(史)教育を行なう理由は様々です。講義を行なう、大学長クラスの先生方の講演を聴く、実地見学するなど、形態もまた様々です。

神戸女学院には10年以上前から「初期神戸女学院」という複数の先生方によるリレー形式の自校(史)教育の授業があります。神戸女学院と言えば何を思い浮かべるでしょうか。「お嬢様学校」「名門校」という答えをよく聞きます。確かに間違いではないと思うのですが、こう言いたいと思います。「神戸女学院はミッションスクール、キリスト教主義の学校です。そしてリベラルアーツ主義の女子大学です。」と。「初期神戸女学院」の授業ではそれを学生（この授業は１年生対象ですから、特に新入生）に伝えるべく、カリキュラムが組まれています。学院の特徴であるキリスト教、英語教育、音楽教育、理化学教育、体育教育、そして卒業生について、特に明治期における学校の果たした役割に注目しています。中でもユニークなのは教室での講義だけでなく、実演や実地見学が含まれているということでしょう。明治時代のピアノや楽譜を実際に用いての授業、また学内に同窓会館があるため、直接先輩方の話を聴く機会もあります。

しかし、神戸女学院において自校(史)教育と呼べるものはこれだけではありません。神戸女学院のキャンパス内にある建物の約３分の１が重要文化財に指定されていることを皆さんはご存じと思います。学生たちは日々、重要文化財の中で過ごすという「とんでもない」体験をしています。そこで重要文化財指定を契機に、「ツアー・マイスター」制度が2014年からできました。キャンパスについての特別な研修を受けた学生たち「ツアー・マイスター」を養成するプログラムです。彼女たちはキャンパスガイドの専門家になります。これとよく似た制度は他大学にもあります。学生スタッフと呼ばれるもので、もちろん神戸女学院にもあります。どこの大学もオープンキャンパスをしています。そして学生スタッフが高校生たちを学内案内します。しかし「ツアー・マイスター」は一般の人々を対象としています。重要文化財は国のものということになるので、一般の人々に公開しなければなりません。その時にキャンパスの説明をするのが「ツアー・マイスター」

バッヂはツアー・マイスターの証

です。研修を受けることによって、より深く学校のことを知るようになります。この研修はこれまで任意の講習会でしたが、今年度から「プロジェクト科目・神戸女学院を創る」という新しい科目が開設され、ツアー・マイスター研修が授業となり、単位の取得も可能となりました。

キャンパスは学校教育の一部です。特に神戸女学院においてキャンパス形成史は学院史と重なります。岡田山キャンパスの重要文化財の建造物は神戸女学院の教育理念を表現しています。ここに居ること、ここで見ること、ここで知ろうとすること、そのものが教育的効果を生み出す―「学舎が教育する」と設計者が語っている神戸女学院のリベラルアーツ教育がここにあります。

自校(史)教育とは How does your garden grow? と問いかけることにほかなりません。神戸女学院にはそこに居るだけでその答えを探すことができるキャンパスがあります。学生の皆さんにはぜひ、自分たちのいる「庭」について、授業を通して、また、キャンパスを通してじっくりと見て、考えて、学びとっていっていただきたいと思います。答えは一つではありません。自分なりの答えをどうぞ見つけてください。

How does your garden grow?と聞かれたら、あなたは何と答えますか。

＜キャンパスお気に入りの場所＞

新学期のはじまり

神戸女学院大学の新学期は、L-13室からはじまります。

文学館１階のL-13室は、新年度の学修便覧や履修登録にかかわる書類を配布する場所です。

学生たちはまずL-13室に行き、新学期の登録ガイダンスまでに登録関係書類をそろえます。

どんな授業があるのかしら、どんな時間割になるのかしら、どんな生活がはじまるのかしら。

新しい毎日への期待を抱き、学生たちの新しい生活がはじまります。

書類配布日までに、私たち教務課職員は登録にかかわる書類を準備し、L-13室に配置します。学部事務室などから届けられる書類もあり、L-13室の机は配布書類でいっぱいです。

高く積み上げられた学修便覧や登録書類の山がどんどんなくなり、最終日にはL-13室の机の上はからっぽになります。

こうして新しい学期がはじまっていきます。

教務課の１年もL-13室からはじまります。

（教務課）

悠久とつながる場所　図書館本館

私が神戸女学院大学の学生として初めてキャンパスに足を踏み入れてから今年で35年になります。人生の半分以上をここで過ごしてきたのだと思うと驚きとともにしみじみとありがたさを感じます。

学生の頃、空き時間をよくこの図書館本館で過ごしました。そのころヴォーリズの建築のすばらしさなどほとんど知らずに過ごしていましたが、この静謐な空間で書棚に並んだ本の背表紙を眺めたり、机の上で本やノートを広げたりしていると、自分が悠久の時間の中にいるような感覚にとらわれ、時空を越えて物語や学問の世界にいるように感じられたものでした。「建物は人を育てる」という言葉をこのキャンパスほど強く感じる場所にそうそう巡り会いません。中庭の芝生の上に座って友達と語り合う時間も好きでしたが、この図書館の古書のにおいや夏でもひんやりとした空気を感じると、今でも厳かな気持ちになってとても落ち着きます。３階の秘密の隠れ家のようなギャラリーも、自分だけの空間のようでいつまでもそこにいたい気持ちになったのを覚えています。

カウンセラーとして学生さんの相談を受けているときにも、「大勢人がいるところは苦手だけど、図書館にいると落ち着きます」「学内では一人でいると変に思われないか気になるけど、図書館の３階なら一人になれます」というような声を時々ききます。これからも学生さんたちが自分と語り合い、悠久とつながる場所の一つであってほしいと思います。

（カウンセリングルーム）

図書館本館

大 学 報 告

2017年度から始まった大学新カリキュラム

「神戸女学院大学の教育は、21世紀を生きる女性に必要なリソースを十分に提供できているか」という問いから、今回のカリキュラム改革は始まりました。少子化に伴ういわゆる「2018年問題」の解決策として、大学の生き残りをかけた魅力ある教学内容を発信するという喫緊の課題もありましたが、溝口前副学長を中心としたワーキンググループを立ち上げ、全学的にこの問題を話し合いました。

働き方や家族、さらには社会の仕組みまでが大きく変わりつつある現代社会で、生涯に渡ってキャリアを積んでいくのに必要な力を身につけるには何が必要か？私達の結論は、本学の伝統的な教育の３つの柱「リベラルアーツ＆サイエンス」、「国際理解」、「キリスト教主義」を、より明確にカリキュラムの内容と構成に反映させることでした。

今回、３つの柱の内容を学生の皆さんに身につけてもらいたい具体的な項目として表すために、「本学で育む７つの力」を新たに掲げました。その７つとは「愛と奉仕の精神」、「豊かな感受性」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力」、「専門的な知識と技能」、「創造性と企画力」、「主体的に学び続ける力」です。この７つの力が身につけられるよう、これまでのカリキュラム構成を大きく発展させ、コア、オープン、メジャーの３つの科目群からなる新カリキュラムを作りました。

このうちコアは、従来からある外国語（英語とその他の言語の両方を学ぶ）、キリスト教学、体育、ITの４つに、新たにクローバーゼミを加えた５つの科目群で構成されています。クローバーゼミは、今回のカリキュラム改革でもっとも重要な新設科目です。この科目では、学科の垣根を取り払い、全学科の学生が混成で少人数のクラスを作ります。そこに人文科学、社会科学、自然科学の異なる分野から３人の教員が加わり、１つのトピックスについてアクティブラーニングでの学びを、週２回一学期間続けます。それにより、７つの力をまんべんなく身に付けることができると期待しています。

メジャーでは、所属する学科の専門科目をしっかりと学ぶことで専門性を身につけますが、同時に他学科の専門科目もオープンとして履修します。オープンでは、入門的な科目を示すことにより他学科科目への導入を容易にしています。メジャーとオープンをともに学ぶことにより、リベラルアーツ本来の複数の視点からの学びを保証します。

必修科目はこの３つの科目群から選択しますが、他学科科目をさらに深めて履修することにより複数の専門性を持ちたい学生のために、マイナープログラムを設置しました。マイナープログラムでは、大学の各学科、それに女性学インスティチュートが提供する19分野の専門科目群から一つの分野を選択します。選択した分野のマイナープログラムアドバイザーの指導のもとに計画的に履修を進めることにより、自分の所属する学科のメジャーと同様に、他学科の専門科目を体系的に学びます。

これらのカリキュラムで身につけた力を職場や家庭、地域社会で発揮できる能力へと繋げるために、特色プログラムも準備しました。特色プログラムにはキャリアデザインプログラム、通訳・翻訳プログラム、地域創りリーダー養成プログラムの３つのプログラムがあり、アクティブラーニングやサービスラーニングを積極的に取り入れた実践的な学びを提供します。

一方、学生のみなさんが新たなカリキュラムにより親しみを持って取り組んでもらえるように、様々なサポート体制も整えました。まず、シラバスに各授業科目で身につけられる７つの力を順次明記するようにしていきます。また、学生一人に対し一人の学科教員がアカデミック・アドバイザーとして関わり、履修の相談に応じます。４年間の学修の進め方を気軽に相談できる体制を整えるとともに、学修計画書を学期ごとに作成し、学びの目標を明確に設定するとともに学修の経過と結果をわかりやすく追跡できるように記録します。

今回のカリキュラム改革では、これからの社会で生きる女性のエンパワーメントを目指し、具体的な７つの力を身につけられるようなカリキュラム構成に留意しました。特にその中でも「主体的に学び続ける力」を身につけることによって、卒業後も他者とつながり、幅広い視野を持つことにより、自らの知性を深める「神戸女学院大学のリベラルアーツ」を身につけた女性として、人生のステージへと巣立っていくことを期待しています。

（副学長・教務部長　西田 昌司）

働く側から見た「女性活躍推進」

３月25日（土）に、大同生命寄付講座「働く側から見た『女性活躍推進』　～女性にとって働きやすい会社とは？～」を開催しました。この講座は、大同生命保険株式会社からのご寄付により実現したものです。

当日は二部構成でした。第一部では、日本型雇用システムの問題点を中心に、労働問題について幅広く論じておられる濱口桂一郎氏（独立行政法人　労働政策研究・研修機構　主席統括研究員）に、「日本型雇用と女性の活躍」と題して基調講演を行っていただきました。「女性活躍」について、日本における歴史的経緯から踏み込んだ考察を披露されました。

第二部では、本学卒業生の永川幸子氏（キャリアスクエア　代表取締役）をコーディネーターとして「女性にとって働きやすい会社とは？」をテーマにパネルディスカッションを行いました。基調講演の濱口氏に加え、企業への取材経験が豊富な戸田博子氏（読売新聞大阪本社　論説・調査研究室　主任研究員）、そして女性ビジネスパーソン２名（本学卒業生）にパネラーとしてご登壇いただきました。ディスカッションでは「女性活躍」を中心に様々な意見が交わされましたが、「女性活躍」は女性だけの課題ではなく、男性の課題でもあり、結局は男女問わずに何らか働き方に制約や問題を抱えながらも、いかにそれぞれの立場で「活躍」できる社会をつくるかが問われるということが最後に共有されました。

（学長室）

第二部のパネルディスカッション

小学校における英語活動ボランティア

英文学科教職課程４年次学生は、毎年西宮市立西宮浜小学校と山口小学校で１年生から４年生の児童を対象とした英語活動の授業を行っている。これはすでに週１回正式な外国語活動の授業を受けている５，６年生だけではなく、他学年の児童にも英語に触れさせたいが、小学校教員は英語免許を持っていないという事情を踏まえ、８年前から本学学生がボランティアで行っている活動である。活動に携わるのは教育実習で現場経験をした学生に限り、各学年とも活動は年３回。学生は自分たちで授業案を作成し、それに必要な手作りの教材を持参して活動に臨む。内容は「楽しくすぐに使えてためになる」授業。例えば数字を教える場合でも、単に繰り返し練習するのではなく、自分のことと数字を関連付け、より身近な物として児童が内容を捉えられるよう工夫する。歌やゲームも取り入れながら自然に身に付けることと５，６年生の活動に繋げることを目指している。「子どもが習ったことを家の人と話すことにも意味がある」とは校長先生のお言葉。児童にとっては日本語以外の言語の存在を知る機会となり、またそれが各家庭での話題となり、学校と家庭を結ぶ役割も果たしている。この活動に従事した学生の多くは中学校、高等学校教員として教壇に立っている。校種は違うがこの活動で得た経験は彼女たちの教員としての土台になっている。貴重な学びの機会を与えていただいているといつも感謝の気持ちで一杯である。

（英文学科准教授　白井 由美子）

活動風景

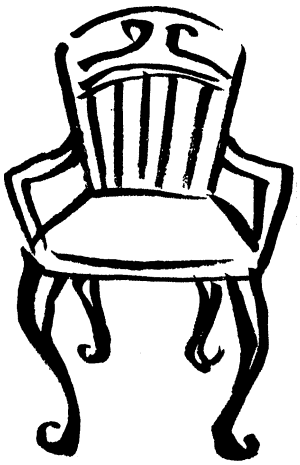
サイエンスキャンプ

人間科学部環境・バイオサイエンス学科では、昨年に引き続き３月29日～30日にサイエンスキャンプを開催しました。サイエンスキャンプとは、高大連携協定締結校を中心とした理系を志望する高校２年生の女子を対象に、大学内で１泊２日で行なう体験学習プログラムです。今年は、和歌山信愛高等学校、兵庫県立西宮高等学校、プール学院高等学校、梅花高等学校の４校から、計13名の生徒を迎え、本学科の教職員７名と、卒業生、院生を含む６名の学生と共に実施しました。

今年のテーマは「①ダイエット効果の高いスーパーフードを探そう」と「②動物の行動と生態調査」でした。①では、脂肪細胞の培養やリアルタイムPCR を用いた遺伝子の発現解析を実習し、脂肪を分解する食材の見つけ方を学びました。②では、夜のキャンパスに出て灯火に集まる生物を観察、標本作成を通して生態調査の方法を学び、観察巣箱でミツバチのダンスを観察してその意味について学びました。

高校生たちは大変興味深く熱心に実習に取り組んでいました。また、実験実習だけではなく、在学生たちが学内を案内し、高校生と一緒にケンウッド館に宿泊し、交流を深めました。サイエンスキャンプに対するアンケートによると、実験は少し難しかったようですが、親切、丁寧に教えていただき内容が良く理解できた、興味が持てた、有意義で楽しかった等好評をいただきました。

（環境・バイオサイエンス学科長　出口 弘）



「美の壺」にツアー・マイスターが出演

去る３月10日（金）に放映されたNHK-BSプレミアムの人気番組「美の壺」において、“学び舎”をテーマに神戸女学院の学舎群が紹介されました。番組からは建物はもちろん、そこで学ぶ学生たちにもスポットを当てたいとの希望があったことから、一般公開日にご案内を担当する“ツアー・マイスター”の学生６名が番組上でツアーをおこなうという趣向で出演しました。当然ながらテレビ出演は人生初体験であり大変な緊張ぶりでしたが、貴重な体験ができたと思います。SNS等でも同窓生をはじめ大きな反響があり、これを本学院の知名度向上に繋げてゆければと考えております。

（総務課）

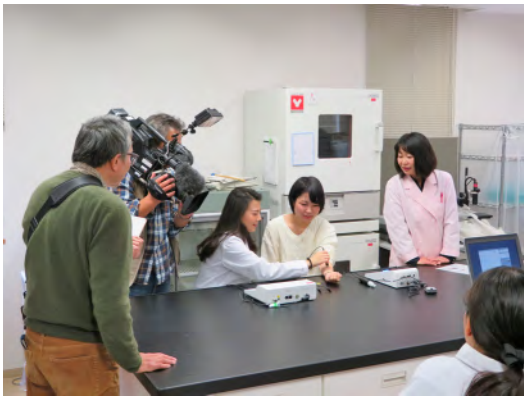
取材風景

NHK「あさイチ」と読売テレビ「かんさい情報ネットten.」に出演

2016年度、研究テーマの「甘酒」について、２本のテレビ番組で取り上げていただきました。出演したのは、NHKの朝の情報番組「あさイチ」と読売テレビの「かんさい情報ネットten.」です。

本番まで、担当の方とメールと電話で何度も打ち合わせをし、撮影はキャンパスの実験室でゼミ生全員が参加して行われました。撮影時は巨大なカメラを間近に向けられながら話すため、学生も私も極度に緊張しましたが、貴重な経験ができたことに学生たちも感動していました。放送後に多くの方から番組を見たとのご連絡をいただき、研究成果を社会に還元できる機会を得たことを感謝しています。

（環境・バイオサイエンス学科教授　高岡　素子）



「あさイチ」撮影風景

関西テレビ「みんなのニュース ワンダー」に出演して

取材当日は、紅葉がまさに見頃を迎え、晴天で空気がとても澄んだ日でした。そんな中、思ったより緊張せず、リラックスして撮影に臨むことができ、学生生活やダンスのことなど、カメラに向かって色々なことを話すことができました。そして中庭でダンスを披露するという経験もできました。

放送後は様々な方から「見たよ！」というお声をいただきましたが、やはり家族が一番喜んでくれたことが私としても嬉しかったです。

もし、またこのような機会をいただくことができましたら、今よりもっと表現力を高めるために研鑽を積んでいきたいです。

（音楽学科舞踊専攻２年生）

中庭での撮影風景

大学春季宗教強調日礼拝
（創立者記念日礼拝）

例年、大学では創立者イライザ・タルカット先生の誕生日を含む愛校週の金曜日、春季宗教強調日礼拝ならびに創立者記念日礼拝を守っています。本年も５月26日にチャプレンの飯謙先生より「創立者イライザ・タルカット先生（1836-1911）―神戸女学院建学の祈り―」と題するご講演をいただきました。飯先生はスライドを用い、タラントン（才能、たまもの、能力）を自分の為にではなく隣人の為に用いられたタルカット先生のご生涯を紹介されました。合わせて、タルカット先生から与えられた「他者の呼びかけに応答する精神的な開放性」「たゆまぬ自己鍛錬」「自立（自律）性へのこだわり」というメッセージを大切にし、先生のように自ら隣人の為に尽くし、真に大切なものを見分ける共感性の高い人格への成長を目指す神戸女学院のミッションステートメントについても強調されました。新入生は初めてタルカット先生の事を知り、「何によらず手をつけたことは熱心にするがよい」（コヘレトの言葉９章10節）という先生の息吹のこもった場で学ぶ意味を心に刻むよい機会となったと思います。礼拝に集った在校生、教職員も改めて先生の志を想い起こす時となりました。礼拝は飯先生の「与えられた能力を他者の為に用いることができますように」との祈りで終えました。

この一週間、愛校週間のチャペルアワーでは卒業生である職員４名がそれぞれ神戸女学院への思い、また今年召天50年となる第６代院長畠中博先生について話されました。タルカット先生のお誕生日である５月22日には神戸再度山にある先生の墓前にて中野敬一チャプレンの司式で礼拝を行い、帰途神戸女学院最初の校地である神港学園を訪問。当時の地図を拝見しながら創立時へと思いを馳せました。歴史の重みを感じる学校で学べた事を嬉しく思うと同時に、守るべき建学の祈りを深く心に刻むひとときでした。このプログラムには同窓生、教職員と共に、学生が６名参加したことを付記いたします。

（チャプレン室）

2016年度　大学図書館報告

１．統計

• 蔵書数

	2016年度受入	2016年度末現在
和書	3,219冊	258,594冊
洋書	777冊	171,201冊
合計	3,996冊	429,795冊
AV 資料	68点	4,067点

• 2016年度貸出状況

学　生	教職員	外来者
35,809冊	6,008冊	1,436冊

• 2016年度相互利用

	文献複写	図書貸借	閲覧	照会
依頼	620件	57件	21件	10件
受付	449件	40件	18件	12件

２．受入図書

• 教育資料費による購入図書
『文藝時評大系　昭和篇』ほか　計99タイトル

• 寄贈図書
『昭和天皇実録』ほか　計369冊

• 寄贈視聴覚資料　計４点

３．その他

• クラス別ガイダンス　45回実施

（図書館課長）

2017年度　大学・大学院入学試験結果概要

●大　学

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	150	182
	総合文化学科	200	243
音楽学部	音楽学科	46	44
人間科学部	心理・行動科学科	90	116
	環境・バイオサイエンス学科	80	99
合　　計		566	684

●大　学〔編入学（3年次）〕

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	0

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	13	9
	比較文化学専攻	5	3
人間科学研究科	人間科学専攻	10	9
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	7
合　　計		35	28

●大学院（博士後期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	1
	比較文化学専攻	2	0
人間科学研究科	人間科学専攻	2	0
合　　計		6	1

2017年度　在籍学生数

（2017年5月1日現在）

●大　学

学年＼学部・学科		文学部			音楽学部	人間科学部			合計
		英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計	
1年	17000	182	243	425	44	116	99	215	684
2年	16000	174	236	410	48	103	89	192	650
3年	15000	174	227	401	50	94	89	183	634
4年	14000	168	211	379	34	98	95	193	606
	13000	20	12	32	1	5	4	9	42
	12000	3	5	8	0	0	0	0	8
	11000	0	2	2	0	0	0	0	2
	10000	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計		721	936	1657	177	416	376	792	2626

●科目等履修生

学　部	6
大学院	0

●聴講生

学　部	2
大学院	7

●大学院修士課程・博士前期課程

学年＼研究科・専攻		文学研究科			人間科学研究科	音楽研究科 音楽芸術表現	合　計
		英文学	比較文化学	小　計	人間科学		
1年	1700	9	3	12	9	7	28
2年	1600	6	1	7	12	8	27
	1500	1	0	1	0	0	1
	1400	0	1	1	1	0	2
	1300	0	0	0	0	0	0
	1200	0	0	0	0	0	0
合　計		16	5	21	22	15	58

●博士後期課程

学年＼研究科・専攻		文学研究科			人間科学研究科	合　計
		英文学	比較文化学	小　計	人間科学	
1年	1700	1	0	1	0	1
2年	1600	0	0	0	0	0
3年	1500	1	0	1	0	1
	1400	0	0	0	0	0
	1300	0	0	0	0	0
	1200	0	0	0	0	0
合　計		2	0	2	0	2

2016年度就職決定状況

学　科	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率 就職決定者／就職希望者	進学者数 大学院	就職率 就職決定者／(卒業者－院進学者)
英　文	152	137	135	98.5%	8	93.8%
総合文化	209	191	188	98.4%	3	91.3%
音　楽	50	21	21	100.0%	7	48.8%
心理・行動	90	82	81	98.8%	6	96.4%
環境・バイオサイエンス	83	74	74	100.0%	4	93.7%
合　計	584	505	499	98.8%	28	89.7%

（2017年４月末現在）

2016年度卒業生の就職率（就職希望者に対する就職者の割合）は98.8%で、前年度を0.8ポイント上回りました。

2015年度の就職活動が企業の採用選考スケジュールの大幅な後ろ倒しとなった「繰り下げ就活」の結果、学生の就職活動期間が実質長期化したのに対し、2016年度の就職活動は、面接などの選考解禁が８月から６月に２箇月前倒しとなり、一転して「超短期決戦就活」となりました。

景気回復を背景に企業の採用意欲は高く、学生にとっては「売り手市場」ではありましたが、２年連続となる就職活動スケジュールの変更は、過去の先輩の事例がそのまま参考にはならないこと、教育実習との両立への影響など、学生は戸惑いの中スタートした就職活動でした。

そのような混乱の中、卒業者に対する就職希望者の割合が86.5%、就職希望者の98.8%が就職を決定し、その就職先として大企業（従業員1000人以上）への就職割合については、53.5%と高い水準となりました。このことは、学生が各自の進路についてしっかり考え、その目標に向かって最後まであきらめず取り組んだ結果だと言えます。

産業別では、金融・保険業が25.3%と前年を3.6ポイント下回りましたが、製造業が15.9%で前年を6.6ポイントと大きく上回り、次いでサービス業、卸売・小売業、運輸・郵便業、情報通信業が続いています。

キャリアセンターでは、学生が自身の将来について自ら考え選択できるよう、学ぶ場・知る場を数多く提供することを目的に、年間130日を超える大小のサポートプログラムを実施しています。今後も学生ひとり一人に丁寧できめ細かい指導を心がけ、より充実した支援を目指していきたいと考えます。

（キャリアセンター）

主な就職先

建設業
熊谷組／大和ハウス工業／髙松建設／竹中工務店／積水ハウス／銭高組

製造業
IDEC／あみだ池大黒／合同製鐵／ゴンチャロフ製菓／山陽特殊製鋼／サラヤ／シーボン／ジョンソン・エンド・ジョンソン／スズキ／TASAKI／東ソー／トラスコ中山／トンボ／日本圧着端子製造／日本食研ホールディングス／日本信号／日本精工／日本電産テクノモータ／ノエビア／パナソニックシステムネットワークス／ミズノ／三菱製鋼／ヤンマー／淀川製鋼所／ローム／ロック・フィールド／ロックペイント／六甲バター

情報通信業
愛媛朝日テレビ／大塚商会／岡山エフエム放送／サイバーエージェント／スミセイ情報システム／東京コンピュータサービス／パナソニックメディコムネットワークス／フォーカスシステムズ／富士ソフト／讀賣テレビ放送

運輸業、郵便業
全日本空輸／ANA エアポートサービス／ANA 大阪空港／ANA 関西空港／ANA スカイビルサービス／日本航空／ジェイエア／ JAL スカイ／ JAL スカイ大阪／スターフライヤー／日本郵便／丸二倉庫／三菱倉庫／SG ホールディングス

卸売業、小売業
青山商事／アズワン／イプサ／岩谷産業／住友商事マシネックス／ダイワボウ情報システム／野村貿易／阪急阪神百貨店／ P&G プレステージ／ビームス／富士貿易／ホンダカーズ大阪／レリアン

金融業、保険業
みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三菱東京 UFJ 銀行／ゆうちょ銀行／足利銀行／関西アーバン銀行／池田泉州銀行／但馬銀行／みなと銀行／南都銀行／紀陽銀行／西京銀行／山口フィナンシャルグループ／阿波銀行／百十四銀行／伊予銀行／四国銀行／西日本シティ銀行／佐賀銀行／熊本銀行／三井住友信託銀行／三菱 UFJ 信託銀行／北おおさか信用金庫／尼崎信用金庫／但陽信用金庫／姫路信用金庫／兵庫信用金庫／兵庫六甲農業協同組合／あいおいニッセイ同和損害保険／損害保険ジャパン日本興亜／三井住友海上火災保険／SMBC 日興証券／大和証券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／野村證券／アメリカンファミリー生命保険／かんぽ生命保険／住友生命保険／第一生命保険／日本生命保険／三井住友海上あいおい生命保険／明治安田生命保険／オリックス／クレディセゾン／三井住友トラスト・ビジネスサービス

不動産業
イオンモール／大東建託

宿泊業
ウェスティンホテル大阪／神戸メリケンパークオリエンタルホテル／阪急阪神ホテルズ

医療、福祉
社会医療法人愛仁会　明石医療センター／社会医療法人大道会／野崎徳洲会病院／淀川キリスト教病院

教育、学習支援業
神戸市中学校高等学校教員／大阪府高等学校教員／大阪府中学校教員／島村楽器／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

サービス業
高見（TAKAMI BRIDAL）／ JTB 関西／ JTB 西日本／エン・ジャパン／マイナビ／エイチアールワン／セコム／一般社団法人日本自動車連盟／ジャパン・アーツ／京都監査法人／長島・大野・常松法律事務所／全国農業協同組合連合会

公務
枚方市／兵庫県／神戸市／尼崎市／淡路市／徳島県

主な進学先

英文学科
大阪大学大学院　言語文化研究科／神戸大学大学院国際文化学研究科／神戸女学院大学大学院　文学研究科

総合文化学科
神戸大学大学院　国際文化学研究科／奈良女子大学大学院　人間文化研究科／神戸女学院大学大学院文学研究科

音楽学科
兵庫教育大学大学院　連合学校教育学研究科／桐朋学園大学院大学　音楽研究科／神戸女学院大学大学院　音楽研究科

心理・行動科学科
関西大学大学院　心理学研究科／神戸女学院大学大学院　人間科学研究科

環境・バイオサイエンス学科
京都大学大学院　生命科学研究科／大阪大学大学院生命機能研究科／神戸大学大学院　医学研究科／奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス研究科

2017年度　キャリアサポートプログラム（予定）

◆3年生対象
4/26(水)　就職ガイダンス①
5/10(水)　インターンシップガイダンス
5/24(水)　インターンシップ選考対策講座①
6/ 7(水)　インターンシップ選考対策講座②
7/ 5(水)　就職ガイダンス②
7/19(水)　SPI模試
8/ 1(火)～4(金)・7(月)
　企業・業界研究ワークショップ
8/28(月)～30(水)
　自己分析とコミュニケーション講座
9/ 4(月)～8(金)　KCエアラインスクール【有料】
9/11(月)・12(火)　初期選考突破のための特訓講座：
　エントリーシート編【有料】
9/13(水)～15(金)　初期選考突破のための特訓講座：
　SPI編【有料】
9/27(水)　就職ガイダンス③
10/ 4(水)　就活ベーシック講座①：就活マナー
10/16(月)～18(水)　言語・非言語Webテスト
10/25(水)　就活ベーシック講座②：筆記試験
11/ 8(水)　就活ベーシック講座③：
　「自己PR」入門
11/15(水)　就活ベーシック講座④：履歴書
11/22(水)　就活ベーシック講座⑤：
　エントリーシート
12/ 6(水)　就活ベーシック講座⑥：企業・業界研究
12/13(水)　就活アドバンスト講座①：
　グループディスカッション
12/20(水)　就活アドバンスト講座②：面接
1/17(水)　職種研究講座①：営業職編
1/24(水)　職種研究講座②：事務職編
1/26(金)　就活アドバンスト講座③：
　グループディスカッション　実践編①
1/31(水)　就活総おさらいセミナー
2/ 5(月)～9(金)　就活アドバンスト講座④：
　面接体験講座
2/ 6(火)　就職ガイダンス④
2/ 7(水)　お勧め企業紹介セミナー：OG企業編
2/ 7(水)・8(木)　言語・非言語Webテスト
2/ 8(木)　企業・業界の選び方セミナー
　就職ナビの使い方セミナー
2/ 9(金)　お勧め企業紹介セミナー：
　学内セミナー参加企業編
2/13(火)　初期選考直前対策講座：
　SPIテストセンター編
2/14(水)　初期選考直前対策講座：玉手箱編
　初期選考直前対策講座：
　履歴書・ES編【有料】
2/19(月)　就活アドバンスト講座⑤：
　グループディスカッション　実践編②
3月　学内企業セミナー
※このほか、後期に自己分析サポート面談、ゼミ訪問等を実施。

◆4年生対象
4/ 5(水)　学内企業セミナー
4/ 6(木)　学内企業セミナー
4/ 7(金)　模擬面接講座①
4/11(火)　学内企業セミナー
4/13(木)　学内企業セミナー
4/14(金)　模擬面接講座②
4/17(月)　模擬GD講座①
4/19(水)　学内企業セミナー
4/21(金)　模擬面接講座③
4/24(月)　就活総おさらいセミナー
4/25(火)　学内企業セミナー
5/ 8(月)　学内企業セミナー
5/12(金)　模擬面接講座④
5/15(月)　模擬GD講座②
5/19(金)　模擬面接講座⑤
5/26(金)　模擬面接講座⑥
6/ 2(金)　模擬面接講座⑦
6/16(金)　模擬面接講座⑧
6/23(金)　模擬面接講座⑨
6月　ホンキの就職
※キャリアカウンセラーによる面談は前期中毎日実施。以降も必要に応じて模擬面接講座、振り返りの講座等を実施する予定。

◆2年生対象
6/23(金)　進路ガイダンス
1/19(金)　就職ガイダンス

◆1年生対象
7/ 7(金)　キャリアガイダンス

◆1～3年生対象
5/19(金)　公務員ガイダンス①
5/26(金)　公務員ガイダンス②
6/ 2(金)　公務員受験対策講座説明会
　神戸市によるガイダンス
10月～1月　仕事発見セミナー
　業界探求セミナー
2月　企業研究セミナー

◆資格講座開講
秘書技能検定講座2級・準1級　春期・秋期2回実施

＜受入れ留学生報告＞

留学の感想

広東外語外貿大学交換留学生

光陰矢のごとく、月日の経つのは早いものです。私の留学生活はそろそろエピローグを迎えます。振り返ってみると日本で過ごした日々は私の人生にとって、様々なことを勉強し体験できた、かけがえのない特別な一年間でした。

私は院生で、文学研究科の授業を取りました。一つは指導教員笹尾先生の日本文学特殊講義でした。毎週、修論向けの自分が書いた研究内容について、一対一で先生から指導を受けるというやり方でした。最初は書き方が分からなくて、うまくいきませんでしたが、先生が細かく丁寧に指導してくださったり、温かく優しく励ましてくださったおかげで、だんだんレジュメの書き方に慣れて、論文のポイントを上手に把握できるようになりました。もう一つは比較文化学総合演習でした。この授業では修論の内容を発表し、優秀な先生方から直接指導を受けることができました。先生方は私の語彙力を考えて、複雑な問題になったら簡単な言葉で質問してくださったり、いろいろな角度から有意義な意見を出してくれました。先生方の細かくて的確なアドバイスは私の修論にとって、欠かせない重要な参考意見となりました。先生方に感謝の意を表します。

また、学部の授業も聴講の形で取りました。学部の授業は「日本の現代事情」と「英語で学ぶ日本文化」と「日本文学概論」などがありました。私が一番関心を持ったのは、中国で茶道部に入っていたため、「英語で学ぶ日本文化」という授業です。華道や茶道や合気道などを体験する機会があって、日本現代文学や演歌や落語なども楽しめました。その授業で他の学生たちとグループになり、討論し、その内容をまとめたことが楽しかったです。この授業のおかげで、琴で「さくら」という曲が弾けるようになりました。

最後に、ここでできた友達といろいろ話をすることで、お互いの国の文化や風習などへの理解を深めることができ、友達との絆が深まりました。また、自分自身の視野が広がり、語彙力も大きく成長しました。いろいろな人と交流したことは、私の留学生活で大切な思い出です。留学して得た貴重な経験を思い出として残すだけでなく、将来に生かしていきたいです。日本での貴重な経験を作るチャンスを与えてくれた広東外大と神戸女学院、いろいろお世話になった先生方にお礼を申し上げます。

知識と美を含む神戸女学院と恵まれた私

広東外語外貿大学交換留学生

母校である広東外語外貿大学（以下、広東外大）で留学面接を受けた時、神戸女学院大学を目指していたわけではありませんでした。ここに来たのはただの偶然だと最初は思いました。しかし、時間が経ち、この９ヶ月間に神戸女学院で学んだこと、出会った人を思い出すと、神戸女学院に来たのは偶然ではなく、運命だと感じます。

私は勉強が好きで、神戸女学院で沢山の授業を受けました。総合文化学科所属なので、文学や日本文化についての授業を楽しみました。その他に、心理学や美学などの授業もとり、受けた授業の種類は、かなり幅が広いと言えます。

ですが、沢山の授業を受けたからこそ、神戸女学院大学と広東外大の違いが分かるようになりました。広東外大では、言語学を勉強している私は、他の授業も取れますが、選択肢が少ないです。しかも専攻外の授業は大体夜に行うので、積極的に授業に出席する学生があまり多くありませんでした。それに対して、神戸女学院では学部限定の授業はもちろんありますが、多くの授業は全学生対象で、外国人の私でも楽しんで参加できます。知識を求める人に沢山の選択肢を作り、チャンスを与えてもらったことにとても感謝しています。

神戸女学院のもう一つの魅力的なところは、美を含んでいるところです。春の桜、夏の藤、秋の紅葉、冬の雪。神戸女学院での一年間の交換留学のおかげで、熱帯地域で生活していた私は四季の変化の美を知るようになりました。また、学生たちが庭に座って、写生をしている場面をよく見かけます。彼らの目に映っているのは神戸女学院の歴史的な建物の美かもしれませんが、私の目に映ったのは学生と学院を繋ぐ美しい風景でした。自然の美しさに加えて、先生と学生がとても優しくて、「何か困ることがあれば私に言ってね」と、色々なことを助けていただき、彼らの心の美しさに大変感謝しています。

そろそろ留学の終わりを迎え、自分がどれほど恵まれているのかを意識するようになりました。心残りがないよう、毎日精一杯知識を身につけ、周りの人と付き合う時間を大切にして、神戸女学院で残された僅かな時間をもっと頑張りたいと思っています。

日本に来て、よかったです

ボーリンググリーン大学交換留学生

日本語を勉強するために、日本に来ました。来る前に「日本なら、どの学校でもいい」と思っていました。だから、ある先生に神戸女学院を勧められた時、あまり考えずに神戸女学院を選びました。今、神戸女学院に来て、よかったと思います。

神戸女学院のキャンパスは本当にきれいです。坂道はちょっと大変ですが、可愛い鳥が見えます。桜が咲いていた時、美しかったです。この大学でたくさん友達ができて、楽しかったです。一緒に話したり、食事をしたり、お買い物に行ったりしました。やっぱり友達が多いほど楽しいです。暇な日は少なかったです。バディさんも案内してくれたり、日本のことを教えてくれたりしました。ありがたいです。E-ZONE で英会話を練習したい人と会って、英語をペラペラ話せる人が多いと思いました。クラスメートも英語をよく分かっているので、もし私が日本語で質問できなければ、英語で聞けます。言葉の壁を感じませんでした。先生たちも優しかったです。日本の文化や日本語など、いろんなことを学びました。日本語がとても上手になりました。ですが、まだまだなので、アメリカに帰った後も、日本語の勉強を続けるつもりです。また、日本に戻りたいです。その時、ペラペラと喋れるでしょうか。この一年間で、日本のことだけでなく、他の留学生から、中国や韓国、フィリピンのことも学びました。こんなことを学べると思いませんでした。留学生たちも困った時に助け合ったり、一緒に旅行したりしました。このいい思い出に本当に感謝しています。いつか、また会いたいです。私は春休みに九州から東京まで旅行しました。田舎や、火山など、色々景色を見ました。関東と九州と中部に行きましたが、関西は一番いい所だと思います。関西には京都も大阪も神戸も奈良もあります。面白い所がいっぱいなので、楽しく日々を過ごせました。もし、私が日本に戻ったら、関西に住みたいです。もう一度神戸女学院の友達と会えたら、いいと思います。

神戸女学院大学で勉強した一年間

イーストアングリア大学交換留学生

私はフォーズダイク・ベスと申します。イギリスから来て、ノリッチのイーストアングリア大学で日本語を勉強している３年生です。2016年の９月に神戸女学院大学にきました。それ以来、神戸女学院大学の皆さんのおかげでいろいろなことが経験できました。

日本に来る前は、留学する目標に「日本語能力を向上させること」だけを考えていました。しかし、日本語を向上させることに加えて、多くの他の必要なことも学びました。例えば、日本の伝統的な文化や、国々の文化の違い、日本の現在の問題などについて勉強するのが本当に面白かったと思います。

また、私は英文学科の E-ZONE で働いていましたので、そこでたくさんの新しい友達に会えて、毎日すごく楽しかったです。皆さんと英語で面白いことや私たちの国の文化を交換できたので、本当に嬉しかったです。神戸女学院大学の学生は英語能力がすばらしくて、私は E-ZONE に来る人と英語でいろいろなことについて話せてよかったです。

最後に、神戸女学院大学の先生たちと私のバディさんたちの優しさに本当に感謝しています。大学の最初の日、日本語は下手だし、知らない人ばかりでしたので、私はすごく緊張していました。しかし、バディさんたちと先生たちはとても優しく、いつも「困ることがあれば、聞いてください」と言ってくれましたので、すぐに日本の生活に慣れました。その優しさのおかげで、将来、留学について考えたら、勉強だけではなく、バディさんたちと食事したことや先生たちのおかげで行けたイベントなどについて思い出せて、嬉しいです。

８月にイギリスに戻ったら、少し寂しくなると思います。すばらしい友達と先生たちに会えて、神戸女学院大学に留学できて、本当に良かったです。KC の皆さん、ありがとうございました。

＜認定留学＞
グラスゴーカレドニアン大学

感　謝

文学部 英文学科　4年生

私は2016年3月から10か月間、認定留学でイギリス、スコットランドのグラスゴーカレドニアン大学に通っていました。最初の半年は語学学校で英語を勉強し、後半は大学で社会学とジェンダーの授業を履修していました。はじめは慣れない土地と英語でのコミュニケーションに戸惑いも多く苦労しましたが、徐々に友達も増え、生活が楽しくなっていきました。語学学校での勉強を終えた頃にはだいぶ英語に慣れてきたと思っていたのですが、大学の授業をスタートすると「これまで勉強してきた英語は何だったのか」と思うほど、学生たちの英語についていけませんでした。グラスゴーはイギリスで最も訛りが強く、話すスピードが速かったので、ディスカッションについていけずかなり落ち込みました。このままではいけないと思い、わからない事は何度も聞いて、ゆっくり話してもらうようにお願いしました。先生や学生たちはとても親切で、私が英語が得意じゃないことを知ると私に対してゆっくり話してくれたり、ついていけているか気にかけてくれました。彼らの支えがなかったら単位を取ることも、授業に行くことすら憂鬱になっていたと思います。英語が得意じゃないために苦しむことも多くありましたが、いろんな人に支えられながら、無事に留学を終えることができました。留学をサポートしてくださった職員の皆様、家族や友人に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

友人宅で誕生日パーティー

＜中期海外研修報告＞
チャタム大学

チャタム大学での留学生活

文学部 英文学科　3年生

私は約7ヶ月間、アメリカ、ペンシルバニア州にあるチャタム大学へ留学しました。異国に身をおくことで新たな観点から物事を感じ取り、発見と刺激、挑戦の日々でした。ここで国境を越えてコミュニュケーションをとる上で英語を学ぶことの大切さを肌で感じました。授業ではプレゼンテーションやディスカッションといった発言の場が多くありました。私は、英語の授業の他に中国語の授業や映画の授業も受講しましたが、どのクラスも先生と学生の間で自由に意見交換が行われていました。そしていかなる発言もクラスメイトと共有し、いつでも学生の意見を尊重してくれました。その環境のおかげで私はどんな場面でも間違えることを以前よりも恐れなくなり、人前で話すことにも次第に慣れていきました。他にチャタム大学では沢山のイベントが開催されており、参加する度に新しい友達との出会いがありました。海外で英語を学ぶことで私自身の視野を大きく広げ、国際感覚を養うことができました。同世代の学生たちが身近にいて、たわいない話だけでなく将来のことなども話し、時間を共に過ごすにつれて楽しみながらも感じ取るものが多くありました。自分とは全く異なった環境で生まれ育っていても、同じことで笑い合うことのできる仲間はいつまでも私の宝物です。そして自然に囲まれた美しいキャンパスで仲間と共に過ごした日々は私の誇りです。最後に、この留学を支えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

最後の授業にて

クイーンズランド大学

中期海外研修・クイーンズランド大学

文学部 英文学科　3年生

私は2年生後期に、オーストラリアのブリスベンに位置するクイーンズランド大学に留学をしてきました。2月の中旬まではICTEという大学付属の語学学校で勉強をして、最後の4週間はインターンシップをしてきました。ICTEでは世界中の人と一つの教室で一緒に勉強をしました。特に印象深かったクラスは、EIBCⅡというビジネスにおける英語を学ぶ授業です。このクラスでは、世界中における名刺交換の違いを体感したり、ビジネスメールを実際に作成したりしました。その後はインターンシップとしてATA/Seek Travelで4週間働いてきました。毎日朝9時から夕方5時まで働くのは私にとって初めてであり本当に大変でした。しかし、そのぶん英語を母語とする人々と一緒に働けるなどとても貴重な体験をすることができました。

今回の留学を通じて勉強だけでなく、その他の面でも多くのかけがえのない経験をすることできました。文化の面に関しては、町のごく一般的なスーパーにも世界中の調味料が並べられており、日々の何気ない生活の中から多文化国家としてのオーストラリアを実感することができました。しかしその一方で、原住民であるアボリジニ人との間にある問題なども垣間見え、多文化共生国家として生きていくことの大変さも感じました。

オーストラリアでの生活は私に多くのことを教えてくれました。この経験で得たものをこれからに繋げていきたいと思います。

UQ　バス停近くより

ヨーク大学

かけがえのない貴重な経験

文学部 英文学科　3年生

カナダのヨーク大学へ2年生後期の半年間、中期海外研修に参加しました。この留学での私の一番の目的はもちろん英語力の向上でした。しかし、この半年間で学んだことは英語力以外にもたくさんありました。

私はこの留学が初海外であったので、海外の生活に慣れること、学校の授業についていくことに初めはとても苦労しました。クラスではディスカッションやプレゼンがあり、海外留学生と協力し合ったり、英語を話したりする機会がありました。皆、間違うことなど気にしないで積極的に発言している姿にとても刺激を受けたことを覚えています。また、英語で自分の意見を伝えようと努力し、たくさんの課題を乗り越えたことは自信につながりました。そして週末は友達と色々な場所に出かけて楽しみました。文化の違いや他国について直に知ることは、おもしろいものであり、友人はとても大きい存在だったと感じます。

この留学で積極的に行動することの大切さに気づかされました。勇気のいることでしたが、色んな機会を大切にして良い経験ができて良かったです。カナダへ留学した半年間はとても充実していて、私にとってかけがえのない貴重なものになりました。留学をサポートしてくださった国際交流センターの皆様、お世話になった先生や友達、そしてこのような経験をする機会を与えてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

YUELIコミュニティリーダーとレストランにて

＜語学研修報告＞

ヨーク大学

ヨーク大学での学び

文学部 英文学科　2年生

初めての研修先にイギリスを選んだ理由は二つあります。一つ目は、アメリカ英語とイギリス英語の違いを実際に学んでみたかったからです。二つ目は、研修内容にビデオプロジェクトがあることを知り興味を持ったからです。ヨーク大学でのビデオプロジェクトやリサーチプロジェクトではただ調べるだけでなく、街に出て歩いている人にアンケートをとることで資料を集めました。特にビデオプロジェクトの方は、撮影をしたので承諾を得ることは大変でしたが、反面自信にも繋がったと思います。先生方はとても気さくで、アットホームな雰囲気を作ってくださったので、私たち自身が一つのチームのようになれたのではないかと思います。ICA で話したヨーク大学に通う学生や留学に来ていた学生は、とても日本に興味のある学生が多くお互いの国の文化について話し合い、交流を深めました。私のホストファミリーは、私と真正面から向き合ってくれるような家族で、本当の両親のように接してくれたので大きな安心感があり、積極的に話すことができました。今回のヨーク大学の研修では、英語力を磨くという面ではもちろん、人との出会いがとても多く充実した研修だったと感じています。不安はもちろんありましたが、その思いを遥かに越すような濃く素敵な一か月を送れたと思います。また成長してイギリスにもう一度帰りたいです。そしてこの研修に関わり、支えてくださったすべての方に感謝します。

クイーンズランド大学

語学研修を通して得たもの

文学部 総合文化学科　3年生

今回の語学研修を経験し、私はコミュニケーションをとることの大切さを学びました。自分の母語が通じないという環境で、はじめはホストファミリーに対しても戸惑いや遠慮があり、あまり話すことができませんでした。ホストファミリーの話していることをすべて理解しようとしたり、自分の言いたいことがうまく出てこず、焦りやもどかしい思いもありました。しかし、そんな私に対しホストファミリーの皆さんは、私の伝えたいことをゆっくりと聞いてくれたり、会話の中で私が間違って使用している英語を訂正しながら会話をしてくれました。そのお陰で私も自分の伝えたいことをしっかりと伝えようと思うようになりました。しかしある時、友人と友人のホストマザーとの会話を聞く機会があり、その時に私は二人の会話の量に驚きました。友人はホストマザーに振られた会話を元に自分のことを話したり、逆にホストマザーに質問をしていたりして会話を繋げ、自分から積極的に話していました。私もその姿勢を見習おうと思い、その日からはホストファミリーに聞かれた内容だけではなく、自分はどう思ったか、日本ではどうかなど、話を繋げていくようになり、さらにホストファミリーとの会話が楽しくなりました。私はこの研修を通して、異国でも積極的に自分の思いを伝えるということの大切さを学びました。今回のような経験を今後の自分の糧にして、これからの学びに生かしていきたいと思います。

広東外語外貿大学

広東外大での大きな学び

人間科学部 心理・行動科学科　3年生

今回の語学研修では沢山の経験をすることができました。元々中国語に馴染みがあり第二外国語として一年間勉強し語学研修に参加しました。広東外大の学長先生や教育学院の周先生、授業をしてくださった先生方はとても親切で留学中とても快適に過ごせました。そして大きな存在となったのが、日本語学科の中国人の学生たちです。彼らは私たちの授業の無いときに広州の様々な場所へ連れて行ってくれました。日本人だけでは行きにくい食堂にも連れて行ってもらい、ますます広東料理が好きになりました。彼らの日本語の上手さにも終始感動していました。中国の若者たちと深い関わりを持てたのも貴重な経験になったと思います。彼らとは今でも連絡を取っていて、私にとって一生の友達になると思います。向こうでの授業は、日本ではあまり見られない風景でした。気付いたことや思ったことをどんどん発言できる環境で学ぶ素晴らしさを実感しました。最初は英語でコミュニケーションを取っていましたがだんだんと中国語で話せるようになってきたことがすごく嬉しかったです。様々な国の友達と話していると、いかに日本が便利で安全で清潔な国かを思い知りました。そして世界の国の文化や現状をもっと知りたいと思いました。様々な国の文化に触れながら過ごした三週間は私にとって大切な宝物です。この経験をこれからしっかりと活かしていきます。

日本語学科の友達との時間

梨花女子大学

韓国での語学研修を通して

文学部 英文学科　2年生

私は梨花女子大学校言語教育院で三週間の語学研修に参加しました。この研修は、韓国語を学ぶのに最適な環境が整っていて毎日非常に充実していました。主な活動は、月曜日から金曜日まで、午後に4時間レベル別に分けられた少人数のクラスでの授業を受け、たまに午前中に文化授業や大学生のバディとの交流がありました。

私は高校生の頃から韓国語教室に通っていますが、現地で韓国語に触れるのが一番だと感じました。今までで文法や単語を学んでも使う機会がなく、知識だけ増えて、でもいざとなったら上手く話せなかったりして自信をなくしていましたが、この研修で先生やクラスメイト、バディなど様々な人との関わりを通して自信がつきました。クラスメイトとは全て韓国語で会話しました。初日は少し緊張しましたが、クラスメイトたちの積極的で、失敗など恐れないその姿勢を見習って私も進んで話したらどんどん仲良くなることができました。バディとの交流は大学を通して参加した学生のみ行われ、実際に梨花女子大学に通う学生にマンツーマンで韓国語の指導をしてもらいました。発音や表現など訂正してもらい、また韓国語以外のこともたくさん教わりました。現地の学生との交流は本当に貴重な体験で、為になりました。

これらの活動を通し、実力も韓国語に対する意欲も上がりました。三週間という短い期間でしたが今後に繋がる貴重な経験をさせてもらえたことに感謝しています。

修了式の後に撮った写真

＜私の研究＞

私の研究

WAKELING Corey

I'm interested in how words enrapture attention. What has unified my work in areas of textuality and performance across themes is this concern for formations of attention. Hence performance studies and theatre studies are major fields of my research. These are fields in which we must observe how audiences contribute to the reception of a work.

Central to my research is Irish writer Samuel Beckett. Constituted of live theatre plays, radio plays, novels, and poems, Beckett's oeuvre must be understood in terms of its multimedial nature. An essay of mine forthcoming in *Modern Drama* entitled "Samuel Beckett's Hypnotic Theatre" addresses how this writer, through innovations in playwriting, sought to transform the theatre into a hypnotically immersive space. Such recent work thereby suggests that innovations in text can transform how audiences pay attention.

（英文学科専任講師）

「我、交わる故に我あり」

石谷　真一

私の専攻している臨床心理学は、研究と実践が分かち難く結びついている。心理臨床実践の核となるのは、援助者が援助を求めて来られた方と直に出会い、言葉をはじめとして様々なチャンネルで心を通い合わせることである。この一見当たり前に見えるコミュニケーションは、その当事者の心模様によって如何に多様になりうるか、またコミュニケーションが当事者の心にどれほど大きなインパクトを与えるかを考えはじめると、そこに豊饒な情緒交流の世界が横たわっていることに気づかされる。中でも人生の始まりを思い浮かべれば、我々は他者との交わりの場に産み落とされ、交わりの中で人としての心を培っていくのであり、交わり如何によっては心はその土台に脆弱さを抱えたり、通常の発達の道筋から逸脱せざるを得なくなる。交わりこそは心の強さと弱さの十字路である。私たち臨床心理学徒が出会う方々は、この交わりの中で様々な負の遺産を抱え、それと格闘する過程で、援助的交わりを求めて来られる。交わりの中で我々援助者も強いインパクトを受け、心の強さ・弱さがあぶり出される。被援助者の心の遺産が援助者の心という相手役を見出すことで関係の中に蘇る。こうして再活性化した遺産をめぐる二人の交流の経験が、被援助者・援助者双方の心の強さ・弱さの布置を変える。援助専門家は交流を通して被援助者の心がその実態を現すことを許容するのであり、そうした特殊なコミュニケーションを自覚的に営む術を獲得すべく日々研鑽している。心理臨床実践を通して見出される我々人間の特異なコミュニケーション機能と心の交流相に私は魅入られている。タイトルの「我、交わる故に我あり」は乳児と養育者との人生最早期のコミュニケーションと心の芽生えを研究したトロニックの言葉である。

（心理・行動科学科教授）

＜ゼミ紹介＞

夢想と思索をつむぎあわせて

孟　　真理

私のゼミでは、ドイツ・オーストリアの文化と文学を学んでいます。出発点はテキストに親しむことから。文学作品や文化論・芸術論などの精読と討論が、基本的なスタイルです。

ドイツ語圏文学の特徴といえば、思索的かつ夢想的なこと。ゼミでは、そうした特徴が顕著にあらわれる幻想的な作品をしばしば取り上げています。現実の枠を越えて自由に飛翔する物語に、ゼミ生は初めは戸惑いますが、それが人間の魂の深部を探り当て、社会のメカニズムの根幹を考える手がかりとなることに気づくと、議論はとても盛り上がります。感性と知性を磨き、また哲学・宗教から歴史や政治にいたる諸分野の知識や思考法を駆使して、作品を読み解くなかで、固定観念にとらわれず、物事を深く多面的に考える力を身につけていきます。

ゼミでもう一つ重視しているのが、そうした文学を育んだ風土や都市空間とその文化の厚みに目を向けること。最近は特に都市と建築に焦点をあてています。異文化を、空間と時間の織りなす場に生成するものとして、複合的にとらえるまなざしを身につけてほしいと思っています。

卒論テーマで一番人気はグリムですが、それ以外にも、それこそドイツ語圏にとどまらず、欧米から現代日本まで多彩です。総文ならではの自由な発想力と、納得のいくまで議論を重ねられる親密な空間を活かして、ともに学び合っています。

（総合文化学科教授）

ゼミ風景

神戸女学院大学音楽学部オーケストラ

松浦　　修

音楽学部のオーケストラの授業についてご紹介します。音楽学部と音楽研究科で管楽器、弦楽器、打楽器、ハープを主専攻する学生及び文学部や人間科学部から副専攻プログラムで音楽を学ぶ学生の計40名でオーケストラを編成し、毎週火曜日の４校時および５校時の３時間、学生たちは真摯に音楽と向き合い研鑽を積んでいます。

授業では、交響曲、協奏曲、その他の管弦楽曲及び宗教曲等多岐にわたる管弦楽曲をとりあげます。大人数で一つの作品を演奏するオーケストラ奏者に求められる資質の向上を到達目標に、学生たちは、オーケストラ作品全般に対する教養を深め、オーケストラ演奏家として必要な専門知識と技能を習得します。

教員による指導の他、プロとして一線で活躍している演奏要員を配置し、学生たちは経験豊かな演奏家と共に演奏し学ぶことができ、少人数教育を特色とする音楽学部ならではの質の高い教育環境を確立しています。

これらの研究成果は、毎年６月にサマーコンサート、11月～12月に定期演奏会を開催し、地域のコンサートホールで一般の皆様に幅広く披露し、発表しています。加えて、毎年12月に学院全体が大切に守っているクリスマス礼拝では、音楽学部合唱団とともに奏楽による奉仕をし、主イエスの降誕の喜びと感謝の想いを胸に、学生たちはその１年間の学びを結びます。

（音楽学科専任講師）

宝塚ベガ・ホールでのサマーコンサート

＜課外活動紹介＞

［クラブ］聖歌隊ハンドベルクワイア

文学部 総合文化学科　3年生

私たち聖歌隊ハンドベルクワイアは、2008年の冬から活動を始め、短い中断の後、2013年から現在の体制となりました。長い歴史のある本学の「聖歌隊」ですが、今日はその主な活動をハンドベル演奏にしています。

現在は部員17名で活動しています。週１回クローバー館で練習しており、２か月に１度外部からハンドベルをご専門とされている先生をお招きしてご指導いただいています。部員の大半はハンドベル初心者です。練習では基礎から丁寧に取り組みますが、今年度は３オクターブのより高度な曲にも挑戦中です。

ハンドベルは１人でも欠けてしまうと演奏は成り立ちません。そのため自分の役割を果たす責任感の重さを感じつつ、同時に部員１人１人の存在の大切さにあらためて気付かされています。

年間活動として、学内では年に２回チャペルアワーにおいて奉仕演奏を行っているほか、アドベントの点灯式や大学クリスマス祝会にも参加し、学外ではアクタ西宮で行われるキャンドルナイトコンサートにも出演しています。また、今年は新入生オリエンテーション礼拝でも奏楽させていただきました。

このように、演奏依頼をいただくことが多くなり、様々な機会での演奏披露が増えてきました。このことは大変嬉しく、私たち部員の励みとなっています。

素晴らしいソールチャペルや講堂で演奏できることは幸せな経験であり、このことに感謝しながら更なる飛躍を目指して、永く続くよう努力してまいります。

アドベントの点灯式

［クラブ］漫画研究会

部長

私たち漫画研究会は、新社交館３階の和室で集まって活動しています。現在部員は約35名で、とても賑やかです。活動日は水曜日と木曜日のお昼休みから、と決めていますが、みんな毎日なんとなく和室やラウンジに集合します。一緒にお昼ご飯を食べたり空きコマを過ごしたりと、部員たちの居場所になっています。

主な活動は、５月の愛校バザーや10月の岡田山祭で、自分たちが作成した漫画やイラストをまとめた部誌を販売しています。イラストが描けない人は、自分の好きな作品についてプレゼンするレポートを書きます。自分の作品が製本されると、憧れの漫画家になれたようで感動します。

夏休みには、岡田山ロッジで１泊２日の合宿を行います。合宿では、漫画研究会らしくみんなでお題に沿ったイラストを描いたり、10月の岡田山祭に向けての原稿に取り組んだりしています。この合宿で、部員たちの仲が一層深まり、岡田山祭に団結して取り組めます。

普段の学校生活では、お昼休みに集まって好きな漫画やアニメの話をして盛り上がっています。同じ趣味を持つもの同士なので、先輩後輩関係なくとても仲がいいです。

まだ部活ができてから日が浅く、活動内容は固定されていないので、部員がやりたい！と思ったことはどんどん取り入れて活動しています。これからも、新しい部員たちとアイデアを出し合い、もっと多くの新しいことをはじめていきたいです。漫画研究会をよろしくお願いします。

2016年愛校バザーの様子

中高部報告

ヨーロッパ女子数学オリンピック報告

高等学部　3年生

私は4月にスイスで行われたヨーロッパ女子数学オリンピック（EGMO）に参加しました。EGMOとは各国から代表として女子4人が参加し、毎年行われている数学の大会で、一週間程度の開催期間のうち、コンテストは2日間あり、コンテスト以外は主に観光と国際交流でした。観光では、チューリヒ市街や動物園や教会などいろんなところに行かせていただきました。他国の選手と接する機会も多く、イタリアのチームとは特に仲良くなりました。コンテストでは銅メダルをいただくことができました。昨年にEGMOルーマニア大会に参加してからの一年間、私なりに競技数学に打ち込んできたつもりでいたものの、まだまだ実力不足で、昨年と同じ結果に終わってしまったことに対して少し悔しい思いもありますが、これまで数学オリンピック関連の合宿や大会などに参加する中でさまざまな人と関わり、話したり遊んだり数学したりしてとても貴重な経験をさせていただきました。競技数学をやってきて本当に良かったと感じています。最後になりましたが、昨年同様、大会関連でご指導いただいた松川先生、温かいお言葉をかけてくださった先生方や支えてくれた友人、色々とお世話になった財団の方々、その他関わってくださった全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

中高部図書室報告

Ⅰ．2016年度の主なできごと
（1）蔵書点検　2016年7月14日～26日

Ⅱ．a　2016年度増加図書冊数（資産化図書）

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	15	0	0	15
洋書	0	0	0	0
合計（冊）	15	0	0	15

b　1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減（資産化図書）

2016年度　増加数	15
2016年度　除籍数	388
蔵書数（冊）	8,425

c　消耗図書費の蔵書冊数の増減

2016年度　増加数	2,741
2016年度　除籍数	3,192
蔵書数（冊）	58,228

Ⅲ．2016年度貸し出し冊数

J1	5,065
J2	3,649
J3	2,587
S1	658
S2	715
S3	85
教職員	511
大学生・大学院生	14
その他	7
合計（冊）	13,291

貸し出し日数　205日　　1日平均　65.1冊

（中高部図書室司書教諭）

2017年度中学部入学試験結果報告

日程：2017年1月14日（土）・16日（月）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	260	254	158	143

（中高部事務室）

2017年度中高部受け入れ留学生

本年度は、S１に２名、S２に１名、計３名の留学生を受け入れています。

S1B組に在籍しているのは、オーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies College（MLC）の生徒です。中高部の生徒の４家庭にお世話になります。S1C組に在籍しているのは、フランスから来られた生徒です。ご本人の祖父母のお宅に滞在されています。S1所属のお二人は、４月から７月まで、日本で学習されます。S2Cに在籍しているのは、カナダから来られたAFS生です。４月から来年２月まで滞在し、修学旅行にも一緒に参加します。学外の方にホストファミリーをしていただいています。

３名は、所属するクラスで一緒に授業を受けたり、他の学年の選択授業に参加したり、週に６時間、講師の先生の日本語の授業を受けたりしています。先日は礼拝時に、自己紹介とそれぞれの母国の学校や家族、友達についてプレゼンテーションしてくれました。明るく元気な３名で、何事にも一生懸命取り組んでいます。

本校の生徒たちも、３名との出会いを通して、異文化に出会い、お互いに良い刺激を与え合ってくれています。

（中高部教諭　留学生係担当）

オーストラリア　MLC生

はじめまして。わたしはオーストラリア人です。15さいです。日本でのべんきょうと日本での生かつをたいけんするために日本へきました。７月まで３ヶ月かんいます。日本はかわいいところだと思います。とてもたのしいです。よろしくおねがいします。

カナダ　AFS生

はじめまして！ココと呼んでください。カナダから来ました。日本の文化とか日本語とかとてもおもしろいと思います。ですから、AFSで日本に来ることに決めました。日本の考え方とカナダの考え方ととても違うから、りゅう学せいの体けんをとても楽しみにしています。日本人はとても親切！よろしくおねがいいします。

フランス

はじめまして。フランスから来ました。日本に来た理由はまず、日本の学校生活を知りたかったからです。色々なクラスにさんかしたり、昼に弁当を食べたりしたかったです。それから日本の友達ができたらいいと思いました。最後にもちろん日本語をもっと上手に喋れるようになりたいです。一学期間、よろしくお願いします。

Ｊ１デイキャンプ報告

４月３日(月)、４日(火)の２日間、新Ｊ１を迎える行事、Ｊ１デイキャンプが行われました。

新Ｊ１は、新しい友人との出会い、電車での通学、毎日の礼拝・授業など、これまで過ごしてきた小学校での生活とは全く異なった環境に期待と不安を抱えています。その不安を少しでも無くせるように、良い学校生活のスタートをきれるように、私たち新Ｊ３から新Ｓ３のメンバーが約６ヶ月間、会議を重ね準備してきました。当日は各クラスを５つの班に分け、それぞれの班にカウンセラーが２～３名つき、班対抗でオリエンテーリングをしたり、レクリエーションをしたりしました。２日目にはクラスごとでジグソーパズル作りを行いました。皆で描く絵を話し合って決め、Ｊ１の学年カラーである黄色の絵の具を使って描きました。最後には６年間の抱負をそれぞれ書きました。これは真っ白なキャンパスを６年間かけて色付けること、１人１人のピースが集まってひとつの大きなパズルが完成すること、誰１人欠けてはいけない大切な存在なんだということ、の意味が込められています。

この２日間を通して、Ｊ１同士も打ち解け、明るい笑顔が溢れていて、私たちカウンセラーにとっても有意義な時間となりました。

これから、お互いを高め合えるような友人をつくり、素敵な神戸女学院生活を送って欲しいと思います。

（Ｊ１デイキャンプ キャンプ長）

春の修養会　大阪水上隣保館訪問

４月22日(土)春の修養会「大阪水上隣保館訪問」を実施いたしました。(参加生徒59名、教員３名)

開会礼拝の後、職員の方からご講演をいただき、隣保館で暮らす子どもたちの置かれている状況について学ぶ機会を持ちました。困難な状況の中でそれでも子どもたちはがんばって生きているのだというお話によって、「恵まれない」とか「かわいそうな」と形容しようとする先入観が取り払われたように思います。

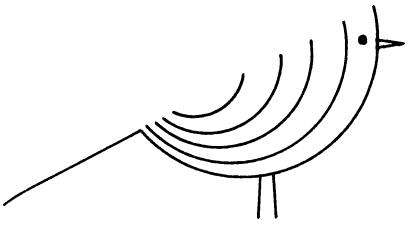
保育園の子どもたち20名を迎えに行き、一緒にお弁当を食べました。子ども１人に３人から４人の生徒がついている様子を見た職員の方々が、「普段は先生１人に子どもが何人もいる状態です。あんな風に自分だけのために大人が一緒にいてくれるなんてないんですよ。みんな本当に嬉しそう…」と仰っていたのが印象的でした。

お弁当の後は園庭で楽しく遊びました。遊びの時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、参加者、子どもたち共に満たされた時間になりました。

「こうして神戸女学院の皆さんが施設見学の前に礼拝を守っておられることを嬉しく思います。『むくいをのぞまで』は創設者の愛唱歌で、隣保館でも節目には必ず歌っています。隣保館の子どもたちにとっても礼拝は大切な時間になっているので、今日は共に礼拝を守ることができて感慨深かったです」と職員の方からは言っていただきました。

次年度以降も、修養会の意義を確かめながらこの行事を続けてゆきたいと願っています。

（中高部チャプレン）



春の子ども会報告

去る４月29日に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童養護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす伝統ある行事です。今回は５施設の子どもたちを招待し、神戸女学院を会場として開催されました。

本校生徒と関西学院の生徒たちとが入念な打ち合わせと準備を重ね、満を持して迎えたこの日、午前中は絶好の子ども会日和でしたが、午後から雷雨の予報があり、急遽午前と午後の予定を入れ替えてのスタートとなりました。朝10時に賑やかな雰囲気の中、開会式が行われ、関西学院グリー部の迫力満点のコーラス、そして女学院 ESS による華やかなダンスと歌を満喫しました。その後、午前中はグラウンドにて思い切り羽を伸ばし、お昼には藤棚前で本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。午後は一号館にて各種ゲームに興じ、午後４時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われ、たくさんのお土産を持って笑顔で帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校や関西学院の生徒たちにとっても最も楽しみな行事の一つです。満面の笑顔が絶えない、素敵な一日となったことに感謝して「報告」とさせていただきます。

なお、当日の引率教員は８名でした。

（高等学部自治会顧問）

2017年度体育祭

６月６日（火）に中高部体育祭が行われました。

お天気に恵まれ、さわやかな風も吹く絶好の体育祭日和となりました。

グラウンドにクラスごとに整列し、出欠確認後8:30より礼拝を行いました。各組の入場行進後開会式では、皆でフェアプレイを誓いあいました。午前中の競技は、登校競争、綱引き、玉入れ、人生レース、棒引き、200m 競走、DEKA パンレース、棒上帽子争奪戦を行いました。午後の競技は、学年対抗パフォーマンス、応援合戦、ムカデ競走、600m リレー、騎馬戦を行いました。学年パフォーマンスの結果は、S３が優勝（147点）でした。

どの競技も、全力で正々堂々と戦い生徒一人一人が責任を持って競技に参加することができました。

閉会式ではお互いを称えあい、練習の成果を全て出し切ったという達成感で溢れていました。総合優勝はゑ組で、２年連続優勝を勝ち取りました。

個人的な感想になりますが、体育祭を成功させることを一番に考え、誰かのために汗と涙を流せる生徒たちと過ごした日々は思い出深いものとなりました。

今年の体育祭も、多くの方に支えられ、無事終えることができました。体育祭に関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

優勝　ゑ組
学年パフォーマンス優勝　S３

（体育祭企画実行委員会顧問）

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ **Ｊサッカー部**

今年度、Ｊサッカー部は10名の新入生を迎え、総勢44名で活動しています。楽しみながら続ける部活を目指し、基礎体力をつけるためのランニング、しっかりとした柔軟体操、実戦感覚を養うミニゲームなど多彩な練習メニューを部活動では行っています。週に一度は外部コーチにも来ていただき、技術の指導をしていただいています。昨今は対外試合も積極的に行い、活動の場を広げています。関西女子サッカー発祥の地であることを忘れず、志し新たに部活動に励んでいきたいと思います。

（Ｊサッカー部顧問）

［クラブ］ **Ｊ美術部**

中学部　３年生

美術部は１年生から３年生まで合わせて12人で活動しています。部活の始めにデッサンをし、その後、行事の前になると共同制作作品を作ります。

たくさん行事がある中で一番美術部が多忙になるのは文化祭です。夏休みに合宿で訪れた場所の風景画と共同制作作品を作らなければならないので、とても大変です。ですが、たくさんの人が見に来てくださり、ほめてくださると達成感で一杯になります。

昨年度は文化祭企画実行委員会からＪＳクラブ最優秀賞をいただきました。今年も賞をいただけるよう、みんなで協力して頑張りたいと思います。

［クラブ］ **Ｓ ESS部**

高等学部　２年生

Beyond the Limit!

Ｓ ESS は講堂で年に３回、英語のミュージカルや歌とダンスのショーを披露しています。現在の部員数はＳ２が３人と寂しいように感じますが、毎回の部活動は個性豊かな３人によって大盛り上がりです。公演毎にエキストラさんを募集し「妥協を許さず」をモットーに、精一杯スケールの大きな舞台を作ることを目指しています。越えるべき壁はいつも高いですが、協力し合い、目標に向かって日々努力できるクラブは最高に居心地がいい場所です。９月の文化祭公演に向けて向上心を持って更に努力していきます。

［クラブ］ **Ｓバレーボール部**

Ｓバレーボール部の活動

Ｓバレー部は勉強とクラブ活動の両立を果たし、阪神間、兵庫県で一つでも多く勝利することを目標に、活動しています。学校生活では、部員それぞれがリーダーとして行事等を盛り上げ、仕事を全うする責任を身に付けています。他校の半分程度しか練習できない中でも、個々のスケジュールを合わせたチーム練習と朝練等の努力を継続させ、少ない練習量をカバーしています。昨年度は西宮市第２シードを取り上位校に勝利する等、他校から一目置かれる、また目標とされるチームになりつつあります。

（Ｓバレーボール部顧問）

〈学 院 日 誌〉

4 月 3 日(月)	新任教職員就任式 オリエンテーション 墓前礼拝
4 月 4 日(火)	大学・大学院入学式 学生寮入寮式
4 月 5 日(水)	中高部教員会議
4 月 6 日(木)	中学部入学式
4 月 7 日(金)	高等学部入学式 中学部・高等学部始業式
4 月19日(水)	中高部教員会議
4 月21日(金)	教授会
4 月26日(水)	理事会
5 月 1 日(月)	教授会研修会
5 月10日(水)	中高部教員会議
5 月16日(火)	中高部教員会議
5 月19日(金)	教授会
5 月22日(月)	創立者記念日 創立者記念日墓前礼拝
5 月24日(水)	理事会 評議員会 理事会及び評議員会メンバーとの懇談会
5 月27日(土)	愛校バザー
6 月 6 日(火)	中高部体育祭
6 月 8 日(木)	中高部教員会議
6 月16日(金)	教授会
6 月18日(日)	オープンキャンパス
6 月28日(水)	理事会 神戸女学院教育振興会役員会
6 月29日(木)	中高部教員会議
7 月11日(火)	中高部教員会議
7 月21日(金)	教授会
7 月26日(水)	理事会 臨時評議員会 臨時理事会
7 月28日(金)	学院リトリート

目 次

私はまだ　私を知らない……1
KCC だより ……4
愛校バザー報告……6
KC 法曹会を設立しました！ ……6
神戸女学院2016年度決算報告及び2017年度事業計画…16
史料室の窓・How does your garden grow？…22
キャンパスお気に入りの場所……23
大学報告
2017年度から始まった大学新カリキュラム…24
働く側から見た「女性活躍推進」……25
小学校における英語活動ボランティア……25
サイエンスキャンプ……26
「美の壺」にツアー・マイスターが出演……27
NHK「あさイチ」と読売テレビ「かんさい情報ネットten.」に出演…27
関西テレビ「みんなのニュース ワンダー」に出演して…27
大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）…30
2016年度 大学図書館報告……30
2017年度 大学・大学院入学試験結果概要…31
2017年度 在籍学生数……31
2016年度 就職決定状況……32
2017年度 キャリアサポートプログラム（予定）…34
受入れ留学生報告……35
認定留学……37
中期海外研修報告……37
語学研修報告……39
私の研究……41
ゼミ紹介……42
課外活動紹介……43
中高部報告
ヨーロッパ女子数学オリンピック報告……44
中高部図書室報告……44
2017年度中学部入学試験結果報告……44
2017年度中高部受け入れ留学生……49
Ｊ１デイキャンプ報告 ……50
春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問……50
春の子ども会報告……54
2017年度体育祭……54
課外活動紹介……55
学院日誌……56

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。
7，13，15，21，28，45，47，51～53